授業科目	日本文化概論						
担当教員	中野洋平						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M3020230
免許資格 関連事項							

授業の概要	本科目は日本文化を多角的相対的に捉え、文化を学修する基礎を形成するために、文化を捉える視座（第一部）と、文化を活用する方法（第二部）について学ぶ。第一部では「文化相対主義」や「オリエンタリズム」「近代」など、現代の日本文化を捉えるために必要な視座と方法について、受講者同士のディスカッションやワークショップ等のアクティブラーニングを取り入れながら学修する。第二部では文化を活用する方法について、「文化財」「文化遺産」「文化資源」等に関する基礎知識を修得しつつ、それらを活用する事例について学ぶ。
授業の 到達目標	【目的】 ・文化を捉える視座を、受講生同士の積極的な議論に基づき学ぶ ・文化の活用について実例に基づいて学ぶ ・上記を通して、地域文化学科の学修を展開する基礎を確立する 【目標】 （１）日本文化を多角的・相対的に捉えることができる【知識・理解】 （２）文化の活用方法について実例を基に具体的に説明することができる【知識・理解】 （３）文化の多様性について関心を示し、自らも文化の担い手であると意識することができる【関心・意欲・態度】 （４）文化を通した他者及び地域理解に向けた積極的な姿勢を持つことができる【関心・意欲・態度】 （５）授業時間内のディスカッションやグループワークにおいて、論理的に自らの意見をまとめ、他と共有・討論できる【技能・表現】 （６）文化を学ぶことに自覚的になり、文化を学ぶことで自己と社会との関係を考えることができるようなる。【思考・判断】
授業計画	第１回　ガイダンス/セルフイントロダクション/ディスカッションのススメ 【第一部　文化を捉える視座を学ぶ】 第２回　文化の価値は誰が決めるのか？―「文化相対主義」を学ぶ 第３回　文化は何種類あるのか？―文化の「カテゴライズ」と「ラベリング」 第４回　どうすれば日本文化は捉えられるか？―「比較」という方法を学ぶ 第５回　日本人は「内気」なのか？―文化の「本質」を考える 第６回　日本にNInjaはいるのか？―「オリエンタリズム」と異文化理解について学ぶ 第７回　なぜ「侍ジャパン」というのか？―文化の「表象」を学ぶ 第８回　「家族団らん」は日本古来の文化？―私たちが生きる「近代」を自覚する 第９回　日本人は日本文化をどう捉えてきたか 【第二部　文化の活用を学ぶ】 第10回　日本の文化財制度 第11回　文化財から文化遺産へ―世界遺産と日本遺産 第12回　自然と文化の合一　―ジオパークの世界 第13回　地域資源と文化資源―郷土料理からCool Japanまで 第14回　文化資源を活用した地域づくり―戦国武将を例にとって考える 第15回　文化を学ぶことと、社会との関わりについて
テキスト	なし
参考文献	大久保喬樹『日本文化論の名著入門』（角川選書）角川学芸出版
評価方法	１．授業内小レポートに対する配点20点→科目の達成目標（１）～（４） ２．授業内ディスカッション・グループワーク・発表に対する配点50点→ 科目の達成目標（１）～（６） ３．最終レポートに対する配点30点→科目の達成目標（１）～（６）

自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むことが望ましい。
履修上の指導・留意点	・授業では受講生同士でディスカッションします。

授業科目	日本文化論Ⅰ（居住文化）						
担当教員	藤居由香						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義・演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020240
免許資格 関連事項							

授業の概要	居住文化に関する知識の獲得と歴史的背景の理解を目標とする。日本国内を対象とし、「住居史」「住宅」「生活空間」の三つのテーマに分けて学ぶ。 住居史については、住宅から生活の営みの歴史を見つめ、近隣地域の歴史的建造物を題材に各時代の住まいの特徴について扱う。 住宅については、文化を支える技術を踏まえて、今後の学生自身の住生活に役立つ住宅建設材料、耐震化、快適に暮らすための設備選択を考えながら、継承すべき日本の居住文化とは何かを知る。 生活空間については、衣食住にまつわる日本の生活様式の変化とともに育まれてきた現代の居住文化についての理解を深める。 （講義 26 時間、演習 4 時間）
授業の 到達目標	【目的】 ・日本の文化の多面性を、生活の営みの歴史として育まれてきた住まいの変遷から知る。 ・修繕しながら住み続ける島根の居住文化を知り、今後の住生活へ活用できる事柄を考える。 【目標】 ・日本の居住文化に関する基本的な知識の獲得を第一到達目標とする。 ・学習内容の応用として、地域の価値ある居住文化を発見し理解する事を第二到達目標とする。
授業計画	第１回　住まいの歴史（古代･中世） 事例；松江市八雲立つ風土記の丘「竪穴住居」、出雲国庁跡復元 第２回　住まいの歴史（近世） 事例；国重要文化財宍道町「木幡家住宅」・松江市指定文化財「武家屋敷」 第３回　住まいの歴史（近代） 事例；国交省超長期住宅先導的モデル事業リノベーション美保関「橋津屋」 第４回　気候及び風土と住まい 事例；防風林（斐川平野築地松）・克雪住宅と雁木（新潟県） 第５回　インテリアと居住文化 室内意匠史・デザイン（透視図・家具三面図）・照明器具・窓装飾 第６回　居住文化に用いた材料 事例；出雲市大津瓦･島根県指定文化財「興雲閣」 第７回　居住文化を支える構造 耐震構造（地盤・基礎・柱梁・筋交い・小屋組・真壁大壁・壁量） 第８回　居住文化をつくる建設 事例；「しまね県民住宅祭」、在来工法・2×4・プレハブ・軽量鉄骨・RC 第９回　居住文化の快適性確保 事例；輻射熱による冷暖房設備と温熱環境「たなべ総合展示場」 第 10 回　高齢者のための住宅 住生活支援の方策と捉える介護保険制度による住宅改修と福祉用具 第 11 回　衣生活空間と衣文化 被服生理からみた快適性と繊維特性・被服整理からみる収納と洗浄 第 12 回　食生活空間と食文化 食寝分離論・ダイニングキッチンの誕生・テーブルコーディネート 第 13 回　住生活空間と住文化 住宅設計（平面図・立面図・断面図）と家事労働を軽減する動線計画 第 14 回　消費生活と消費文化 商品と役務を媒介とした消費者と事業者の位置づけと購買環境の変化 第 15 回　居住環境と居住文化 今後の課題；中心市街地空洞化・マンション進出・郊外住宅地開発問題
テキスト	「住まいのデザイン」　藤居由香、他８名　朝倉書店　2015
参考文献	「すまい考今学　現代日本住宅史」　西山夘三　彰国社　1989

	「新しい住まい学」　　ペリー史子、他 6 名　井上書院　2016
評価方法	居住文化に関する知識の理解度について測る小テスト（50%）と、地域の価値ある居住文化発見に関するレポート作成及び発表（50%）の二つに分けて評価する。
自己学習に関する指針	・将来、自分が住みたい家を探す際に、役に立つようなノートを取ること。
履修上の指導・留意点	*学外研修を土日祝に１回実施予定 2018 年度入学生：橋津屋・佛谷寺・美保神社・美保関灯台ビュッフェ・夢みなとタワー 2019 年度入学生：美保関研修中止、2020 年度入学生：美保関で調整中 **パソコンを使った描画作業あり ***希望者は 11 月にリビングスタイリスト検定 2 級･福祉住環境コーディネーター3 級の受験が可能 ※公務員/まちづくり/地域資源/住宅に関わる企業等への就職を考えている学生は履修が望ましい。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、住宅関連企業での勤務経験を活かして，家づくりやインテリアコーディネートに関わる授業を展開する。

授業科目	日本文化論Ⅱ（祭礼文化）						
担当教員	品川知彦						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020250
免許資格関連事項							

授業の概要	神在祭・および神集い伝承を例にとりながら、島根の祭礼文化を調査・研究する上での基礎知識の習得を目標とする。地域の祭礼文化の意義を知り、県外の人にもその意義を伝えられるレベルを到達目標とする。
授業の到達目標	・県外の人にも島根の特色ある祭礼行事の意味を伝えられる。 ・民俗調査を実際に行う上での留意点を把握し、祭礼の調査・研究を行う上ので基礎知識を習得する。
授業計画	第１回　ガイダンス　神在祭の概要・課題の把握 第２回　先行研究の把握１（民俗学からのアプローチ１） 第３回　柳田国男の民俗学１ 第４回　柳田国男の民俗学２ 第５回　先行研究の把握２（民俗学からのアプローチ２） 第６回　民俗宗教論概説・神集い諸社概説 第７回　先行研究の把握３（歴史学・神道史学からのアプローチ１） 第８回　先行研究の把握４（歴史学・神道史学からのアプローチ２） 第９回　先行研究の問題点の把握 第 10 回　現状の祭礼の把握、および現地調査の留意点 第 11 回　諸社の神集いの論理１ 第 12 回　諸社の神集いの論理２ 第 13 回　神集い伝承の広がり 第 14 回　さらなる課題の把握 第 15 回　出雲大社縁結び信仰の成立
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考文献	１　石塚尊俊『神去来』、慶友社、平成７年 ２　『柳田国男全集』２８、ちくま文庫、平成２年（『柳田国男全集』８、筑摩書房、平成 10 年） ３　『神在月』、山陰中央新報社、平成 27 年
評価方法	簡単なレポート、試験などから総合的に評価する。
自己学習に関する指針	参考文献を熟読することをお薦めする。
履修上の指導・留意点	授業前に、配布したプリントを一読しておくこと。

授業科目	日本文化論Ⅲ（妖怪文化）						
担当教員	小泉凡						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020260
免許資格 関連事項							

授業の概要	民俗学の基層をなす民間信仰に焦点をあて、その中でも人間の想像力が生み出した異界に属する超自然的なものの存在（妖怪）に多角的にアプローチしながら、人間と異界との交渉の歴史を探究することを目標とする。授業では、「一つ目小僧」「雪女」「河童」「巨人」「小泉八雲」「水木しげる」などを切り口に、妖怪とその文化背景、妖怪研究の系譜への理解を深めるとともに、ヨーロッパの妖精信仰との比較や現代社会における妖怪の意味についても考えていく。
授業の 到達目標	１．日本の民俗的世界にみえる妖怪とその背後にある民俗信仰について説明することができる。 ２．日本人の妖怪観の特色と変遷について説明することができる。 ３．現地研修を通し、文化資源としての妖怪の活かし方について、具体的な意見を述べることができる。
授業計画	（講義 28 時間、演習 2 時間） 第１回　イントゥロダクション：妖怪の概念と種類、妖怪研究の系譜 第２回　日本人における妖怪観の系譜 第３回　一つ目小僧とたたら製鉄 第４回　ダイダラ坊と巨人伝説 第５回　河童と水神①～河童駒弾譚と胡瓜・相撲・頭上の皿の意味～ 第６回　河童と水神②～球磨地方の川ん太郎と山ん太郎～ 第７回　雪女伝承と民話～書承と口承を行き来して伝播する怪談～ 第８回　日本の怪談にみる輪廻転生の死生観 第９回　水木しげると小泉八雲①～幼児体験をめぐる共通性～ 第 10 回　水木しげると小泉八雲②～アニミズムに根差す妖怪観～ 第 11 回　ザシキワラシとバンシー～日本とアイルランドの家につく精霊たち～ 第 12 回　ケルト世界の妖精伝承の特色～ドルイド信仰をめぐって～ 第 13-14 回　文化資源としての妖怪～日本妖怪博物館（広島県三次市）での現地研修～ 第 15 回　まとめ：日本における神と妖怪
テキスト	授業で、プリントを適宜配布する。
参考文献	小松和彦『妖怪文化入門』（角川ソフィア文庫、2012 年）、小松和彦他編『47 都道府県・妖怪伝承百科』（丸善出版、2017 年）、ウェブサイト「怪異妖怪伝承データベース」（国際日本文化研究センター）
評価方法	平常点（授業態度・コメントカード）（30%）、現地研修への参加とレポート（30%）、期末課題（40%）
自己学習に 関する指針	授業中に紹介した参考文献を積極的に読むことが望ましい。
履修上の 指導・留意点	日本妖怪博物館の入館料および交通費等の一部負担金が必要となる場合もある。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、小泉八雲記念館の館長としての業務経験を生かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	日本文化論Ⅳ（表象文化）						
担当教員	渡部周子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020270
免許資格 関連事項							

授業の概要	想像されたものや象徴的なものを虚構のイメージによって表現する「表象」という概念について、また、人々の心を動かしたり社会構造を維持したり変化させたりという「表象」の機能について理解することを目標とする。具体的には、文献資料と視覚資料（美術、写真、映画、漫画、アニメーション等）の双方に表現された、「女性」「子ども」「少女」などを分析の軸とし、これらを歴史的、社会的な観点から考察する。
授業の 到達目標	１．人文社会科学の研究上における「表象」という概念の位置づけを理解し、説明できる。 ２．具体的な事例について、表象の機能という視点で、分析的に説明できる。
授業計画	授業計画 第１回　ガイダンス 第２回　表象とはなにか 第３回　象徴とはなにか 第４回　規範像とはなにか 第５回　規範像１　　国民主義と市民道徳 第６回　規範像２　　ジェンダー規範 第７回　規範像３　　理想的女性像の諸相 第８回　規範像４　　新しい女性像としての－女学生、少女 第９回　規範像と逸脱者 第 10 回　「美」という表象　１　「美しい」とはどういうことなのか 第 11 回　「美」という表象　２　男性美と女性美について 第 12 回　「美」という表象　３　性別の境界と越境 第 13 回　「美」という表象　４　「かわいい」とはどういうことか 第 14 回　「美」という表象　５　未成熟の美学 第 15 回　総括 （進行順序や内容は変更となる場合がある）
テキスト	講義に際して適宜案内する。
参考文献	小針侑起『大正昭和美人図鑑』河出書房新社、2018 年。ジョージ・Ｌ・モッセ『ナショナリズムとセクシュアリティ』佐藤卓己、佐藤八寿子訳、柏書房、1996 年。太宰 治『太宰治全集１０』筑摩書房、1989 年。平山 城児『川端康成　余白を埋める』研文出版、2003 年。難波知子『学校制服の文化史』創元社、2012 年。難波知子『近代日本学校制服図録』創元社、2016 年。ブラム・ダイクストラ『倒錯の偶像』富士川義之他訳、パピルス、1994 年。ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体』白石隆・白石さや訳, 書籍工房早山、2007 年。増田美子監修『ビジュアル―日本の服装の歴史③』ゆまに書房、2018 年。若桑みどり『イメージの歴史』ちくま学芸文庫、2012 年。渡部周子『＜少女＞像の誕生　―近代日本における「少女」規範の形成』新泉社、2007 年。渡部周子『つくられた「少女」』日本評論社、2017 年。
評価方法	平常点（発言、小課題等）（65%）、課題（35%）の総合評価となる予定である。
自己学習に 関する指針	授業で挙げた参考文献、図像資料について、各自で読んだり、鑑賞する時間を設けること。
履修上の 指導・留意点	受講生数や受講生の理解度等に応じて、授業の順序、進行、評価方法に変更がある場合がある。

授業科目	日本の歴史Ⅰ（文化史）						
担当教員	杉岳志						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	コース必修	単位数	2	授業コード	M3020280
免許資格関連事項							

授業の概要	天変地異を文化史の側面から考察し、江戸時代の人々が我が身に降りかかった天変地異をどのように理解したのか、そしてどのように対応したのかを検証する。天変地異を切り口として、過去もまたひとつの「異文化」であることを理解すること、ならびにわたしたちの文化と社会を相対的に捉える視点を獲得することが授業の目的である。授業は、毎回ひとつないし関連する複数の天変地異を取り上げ、当時の人々の記録を読み解きながら進めていく。
授業の到達目標	１．天変地異を歴史的に捉えることができる。 ２．根拠に基づき、自分なりの議論を展開することができる。 ３．授業の内容に対し、自分なりの疑問・感想を述べることができる。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　明暦の大火 第３回　寛文地震 第４回　近世日本の天文学と彗星 第５回　寛文４年の彗星 第６回　寛文８年の大火 第７回　綱吉と天変地異１　天変と大火 第８回　綱吉と天変地異２　元禄地震・宝永地震・富士山噴火 第９回　吉宗と洪水・彗星 第10回　近世中後期に出現した彗星と天皇・民衆 第11回　浅間山の噴火と天明の飢饉 第12回　天保14年の白気 第13回　安政江戸地震 第14回　幕末に出現した彗星とコレラ 第15回　まとめ
テキスト	テキストは使用せず、プリントを配布する。
参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	コメントシートの記述内容30%、中間レポート30%、期末レポート40%の割合で評価する。 レポートは、①レポートの作法に則っているか、②授業で示した論点を理解できているか、③根拠に基づいて自分なりの議論を展開できているかをもとに総合的に評価する。
自己学習に関する指針	・中間レポートでは課題文献の書評、期末レポートでは過去に生じた天変地異とその影響についての考察を求めます。授業で紹介する文献をしっかり読んでください。
履修上の指導・留意点	・質問はその内容に応じて授業時間中・研究室・e-mailで対応します。

授業科目	日本の歴史Ⅱ（観光史）						
担当教員	工藤泰子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020290
免許資格関連事項							

授業の概要	近代日本における観光の展開について理解を深めることを目標とする。 授業では近世の旅の形態から近代的な観光への変遷について、社会のうごき（近代国家の誕生、博覧会開催、鉄道の敷設、移民送出、戦争など）と連動させながら、観光の位置づけがどのように変化してきたのかを学修する。具体的には、幕末期から戦後復興期における観光関係特別都市建設法の制定までを本授業の対象とし、国家的な観光政策と地方都市の事例をおりまぜながら講義する。
授業の到達目標	・近世までの旅と明治期以降の観光のあり方の違いを理解する。 ・近代日本における観光政策を理解する。 ・観光の歴史を社会の動きと連動させて考察できるようになる。
授業計画	第１回　近世以前の旅 第２回　近代化とお雇い外国人①近代国家の誕生 第３回　近代化とお雇い外国人②観光の国際化 第４回　博覧会と観光①京都博覧会 第５回　博覧会と観光②地方への影響 第６回　鉄道敷設と観光 第７回　修学旅行の誕生 第８回　都市イメージの形成①古都 第９回　都市イメージの形成②城下町 第 10 回　戦前の国際観光政策①（明治期） 第 11 回　戦前の国際観光政策②（大正ー昭和初期） 第 12 回　戦前山陰の観光 第 13 回　戦時下の観光①国策と観光 第 14 回　戦時下の観光②幻の東京五輪 第 15 回　戦後復興と観光
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	授業ごとに紹介します。
評価方法	平常点 70%（課題、コメントシート、小テスト、授業への取組状況）、期末レポート（30%）の総合評価とします。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	日本の歴史Ⅲ（近世）						
担当教員	杉岳志						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020300
免許資格関連事項							

授業の概要	今日の日本の社会や文化の基層をなす江戸時代の社会と文化について学ぶとともに、歴史研究の基本的な手続きである史料批判について理解を深める。授業では、「鎖国」「士農工商」「生類憐みの令」「元禄文化」「田沼時代」「百姓一揆」といった高校までの日本史の授業で学習してきた事項について近年の研究成果を紹介し、当該期の社会や文化、史料批判の重要性などについて講義する。島根の事例を交えて説明することで、地域の歴史を相対化して捉える視点も養う。
授業の到達目標	１．江戸時代の歴史に関する事項について説明することができる。 ２．史料批判の重要性について説明することができる。 ３．島根の歴史を日本の歴史の中に位置づけて捉えることができる。 ４．授業の内容に対し、自分なりの疑問・感想を述べることができる。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　鎖国 第３回　士農工商 第４回　村 第５回　城下町 第６回　西廻り海運・東廻り海運 第７回　儒学 第８回　関ヶ原の戦い 第９回　慶安の御触書 第 10 回　生類憐みの令 第 11 回　元禄文化 第 12 回　田沼時代 第 13 回　三大改革・藩政改革 第 14 回　百姓一揆・打ちこわし 第 15 回　まとめ 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、プリントを配布する。
参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	コメントシートの記述内容 20%、小テスト 20%、期末試験 60%の割合で評価する。
自己学習に関する指針	・配布のプリントをしっかり復習してください。
履修上の指導・留意点	・質問はその内容に応じて授業時間中・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	日本の歴史Ⅳ（近現代）						
担当教員	板垣貴志						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020310
免許資格関連事項							

授業の概要	現在の日本の社会の形成と密接に関係する日本の近現代の歴史についての講義を受講することで、日本の社会がいかなる歴史的過程を経て成り立ってきたかを理解し、その理解を現代の諸問題を考える契機とすることを目標とする。講義では、日本近現代史の通史叙述の背後にある歴史研究の蓄積を紹介する。学生は日本近現代史がこうした蓄積の上に成り立っていることを理解し、学術的根拠に基づく日本近現代史の認識を身に付ける。
授業の到達目標	１、日本近現代史の通史叙述の背後にある歴史研究の蓄積を理解する。 ２、学術的根拠に基づく日本近現代史認識の獲得を目指す。 ３、歴史的事象の調べ方を学ぶ。
授業計画	日本近現代史の通史叙述の背後にある歴史研究の蓄積を概説します。 第１回　ガイダンス 第２回　開国と幕末の動乱 第３回　明治維新と富国強兵 第４回　立憲国家の成立と日清戦争 第５回　日露戦争と国際関係 第６回　近代産業の発展 第７回　近代文化の発達 第８回　第一次世界大戦と日本 第９回　恐慌の時代 第 10 回　軍部の台頭 第 11 回　第二次世界大戦 第 12 回　占領下の日本 第 13 回　高度成長の時代 第 14 回　激動する世界と日本 第 15 回　まとめ
テキスト	特にありません。
参考文献	『週刊朝日百科 日本の歴史』（朝日新聞社）など。その他は講義にて適宜紹介します。
評価方法	平常点 50%、最終レポート 50%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	毎回の授業では出席票として感想・質問用紙を配付します。次回の授業でそれに応答し、往還的に授業を作っていきます。積極的な参加を望みます。

授業科目	古文書を読む						
担当教員	杉岳志						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020320
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）						

授業の概要	くずし字で書かれた江戸時代の古文書を読解する。授業は教科書の事前学習を前提とし、前半に事前学習内容の解説、後半に史料を読解するグループワークを行う。グループワークで読解する史料には実際の古文書を利用し、モノとしての古文書に対する理解を深める。また、受講生が地域に残る古文書の保存の一翼を担えるよう、史料保存の重要性や史料を保存する上でのポイントを適宜説明する。
授業の 到達目標	１．くずし字で書かれた江戸時代の古文書を読解するのに必要な基礎知識を身に付ける ２．古文書という資料の特質を理解する
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　古文書読解のポイント 第３回　教科書第１章　婚姻①　解読 ／ グループワーク 第４回　教科書第１章　婚姻②　解釈 ／ グループワーク 第５回　教科書第２章　相続①　解読 ／ グループワーク 第６回　教科書第２章　相続②　解釈 ／ グループワーク 第７回　教科書第６章　村役人①　解読 ／ グループワーク 第８回　教科書第６章　村役人②　解釈 ／ グループワーク 第９回　教科書第８章　鉄炮①　解読 ／ グループワーク 第 10 回　教科書第８章　鉄炮②　解釈 ／ グループワーク 第 11 回　教科書第 11 章　拝借金①　解読 ／ グループワーク 第 12 回　教科書第 11 章　拝借金②　解釈 ／ グループワーク 第 13 回　教科書第 14 章　修験①　解読 ／ グループワーク 第 14 回　教科書第 14 章　修験②　解釈 ／ グループワーク 第 15 回　まとめ 定期試験
テキスト	天野清文・実松幸男『はじめての古文書教室』（天野出版工房／吉川弘文館（発売）、2005 年）
参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	平常点（グループワークへの取り組み・コメントシートの記述内容など）50%、期末試験 50%の割合で評価する。
自己学習に 関する指針	・教科書の予習を前提として授業を進めるので、毎回予習をして授業に臨むこと。
履修上の 指導・留意点	・日本史ゼミを希望する学生は 2 年次に履修してください。 ・質問はその内容に応じて授業時間中・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	日本文化演習Ⅰ（茶道）						
担当教員	和泉澄子（宗澄）						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3020330
免許資格関連事項							

授業の概要	茶道の歴史や茶の心を、理論と実践を通して学ぶ。深い精神性をもとに作り出された茶室や露地、礼儀作法、茶道具、茶事・茶会、さらに松江の茶人として有名な松平不昧について理解を深める。実技では、基本手前を実践的に学ぶことで、茶席における客と亭主、双方の振る舞いを身に付ける。学生間で客と亭主の役割を交替でおこない、お互いの進捗状況を記録・確認することで、基本的な手前・所作を身に付ける。
授業の到達目標	・茶道の歴史とその精神を知ること ・基本手前の実践を通じて、日本及び地域の伝統文化を理解すること
授業計画	第１回　茶道の意義　◆和敬静寂・利休七則・茶事・茶と禅・茶道の逸話・茶と健康 第２回　茶の歴史　◆茶の伝来と発展(草庵茶・わび茶)・茶道の成立(利休とわび茶の完成)・松平不味の歴史と茶道具・茶室 第３回　茶室・露地　◆茶室の作り・国宝の茶室待庵・如庵・密庵 ◆露地の名称と役割 第４回　主な茶道具　◆掛物・茶入・茶杓・茶碗・薄茶器 第５回　茶事・茶会　◆茶事における亭主と客の心得・茶事の構成・懐石・濃茶と薄茶 第６回　茶の点前　◆茶の湯とお点前の意義　◆ 亭主・水屋の役割と客の心得 第７回　実技１　◆茶室での作法(入退出・歩き方・床の間拝見・礼の仕方など) 第８回　実技２　◆割稽古(帛紗の扱い) 第９回　実技３　◆割稽古(棗・茶杓・茶巾・茶筅の扱い)と水屋の準備・片付け 第 10 回　実技４　◆割稽古(帛紗・棗・茶杓・茶巾・茶筅の扱い)と水屋の準備・片付け 第 11 回　実技５　◆薄茶運び点前(亭主・客・水屋の役割) と水屋の準備・片付け 第 12 回　実技６　◆薄茶運び点前(亭主・客・水屋の役割交代) と水屋の準備・片付け 第 13 回　実技７　◆薄茶運び点前(亭主・客・水屋の役割交代) と水屋の準備・片付け 第 14 回　実技８　◆薄茶運び点前(点前習得状況の相互確認) と水屋の準備・片付け 第 15 回　総合　◆まとめ
テキスト	『裏千家茶道』(今日庵)　　９７０円(税込)
参考文献	『茶の湯入門』（洋泉社 BOOK)
評価方法	・平常点(50%)→理解度テストを実施 ・実技(50%)　→点前習得状況確認
自己学習に関する指針	実技については前回の実技の復習が必要。
履修上の指導・留意点	・履修上限を 20 名までとします。 ・実技の際は白いソックスを持参してください。(茶道の和室に入室する際に着用します) ・手持ちの帛紗セットがあれば持参してください ・実技については前回の実技の復習が必要です。(点前習得状況の確認を実施します) ・茶道検定(裏千家主催) ３・４級の受験支援をしています。 【テキスト代に加えて下記の費用が必要となります】 ・菓子・抹茶@2000 円程度

授業科目	日本文化演習Ⅱ（華道）						
担当教員	山根かねみ						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3020340
免許資格 関連事項							

授業の概要	生け花を通じて、日本の伝統文化、特に室町期から江戸期にかけて完成された日本の美意識を理解することを目標とする。授業は講義と実技によって構成する。講義では、生け花の歴史と、茶の湯とともに発展した立花の中心的な概念を学ぶ。実技では、自由花・生花を実践的に生けることによって、日本の様式美を学ぶ。それぞれの作品に対しては、作品の個性を尊重しながら個別にアドバイスを行うことで、生け花への関心と創造性を養う。また、学生間の作品批評や毎回のレポート、復習を通して、基本的な生け花の方法を身につける。
授業の 到達目標	・花や草木という植物の調和を考えることができるようになる。 ・テーマに対する表現力を身につける。 ・いけばなを通して自己を表現する力を身につける。
授業計画	第１回　生け花概論 ◆「華道」とは：生け花の成立と歴史 第２回　いけばなの形態と技法 ◆立花、生花、自由花について　◆稽古の心得（マナー） ◆草木の扱い方（叉木、剣山での技法、水揚げ処理の仕方） 第３回　生花概論とデモンストレーション ◆生花の構成について～真・副・体・あしらい ◆実習～自然出生、観察、一種生けの技法、レポート提出 第４回　生花実習Ⅰ基礎編（二種生け～実習、レポート） 第５回　生花実習Ⅱ基礎編（三種生け～実習、レポート） 第６回　生花まとめ：生花新風体と今後の生花に関して 第７回　自由花概論と実習：自然的表現と意匠的表現に関して、レポート提出 第８回　自由花実習Ⅰ基礎編～面の見せ方、レポート提出 第９回　自由花実習Ⅱ基礎編～点、マッスの技法、レポート提出 第 10 回　自由花実習Ⅲ応用編～花器・花材からの発想、レポート提出 第 11 回　自由花実習Ⅳ応用編～オンリーワンの花に挑戦、レポート提出 第 12 回　四季といけばな「行事を生ける」 第 13 回　自由花まとめ～環境との調和、心を生ける 第 14 回　総合実習～生花か自由花を生ける、レポート提出 第 15 回　いけばな概論まとめ：「専応口伝」解説、池坊ビデオ鑑賞
テキスト	以下のテキストを授業中に販売する（2 冊あわせて 2000 円） 『いけばな池坊　自由花入門カリキュラム　お稽古ノート』（華道家元　池坊総務所） 『いけばな池坊　生花入門カリキュラム　お稽古ノート　ステップ２』『同』
参考文献	『はじめるいけばな 学校華道』、松原清耕『いけばなの傳法』（ともに日本華道社）
評価方法	平常点（50%）：レポート内容 実　習（50%）：理解度、表現力
自己学習に 関する指針	実習で生けた花については、持ち帰り後に再び生けて復習することが望ましい。但し持ち帰りができない場合は、構内に作品として展示することとする。
履修上の 指導・留意点	・履修上限を 20 名までとします。 ・人数により、実習の花材代として別途 3,600 円程度（300 円×12 回分）が必要になる場合があります ・この授業を受講すると、池坊の入門・初伝の資格を申請・取得することができます（希望者のみ。別途申請料が必要です）。

授業科目	書道Ⅰ（基礎）						
担当教員	福田哲之						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3020350
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・書道（書写を中心とする。）						

授業の概要	楷書の古典の中から唐・欧陽詢「九成宮醴泉銘」を取り上げ、臨書を通して楷書の基本的な技法を習得する。授業は毛筆による半紙練習を主とし、個別指導を中心に展開する。
授業の 到達目標	・楷書の特徴について理解する。 ・楷書の基本的な技法を習得する。 ・授業で習得した技法を日常の文字書写にも生かすことができるようにする。
授業計画	第１回　授業の進め方・用具・教材についての説明（用具は第２回から使用） 第２回　点画の書き方（１）横画 第３回　点画の書き方（２）縦画 第４回　点画の書き方（３）点 第５回　点画の書き方（４）はらい 第６回　点画の書き方（５）折れ 第７回　点画の長短 第８回　点画の方向 第９回　点画の接し方・交わり方 第 10 回　画と画との間 第 11 回　文字の中心 第 12 回　文字の組み立て方（１）上下の組み立て 第 13 回　文字の組み立て方（２）左右の組み立て 第 14 回　文字の組み立て方（３）にょう・たれ・かまえ 第 15 回　行の中心･字間・行間 まとめ・課題提出
テキスト	「九成宮醴泉銘」から各回のテーマに応じた課題をプリントして配布する。
参考文献	『教えて先生書の基本』、『墨』編集部編、芸術新聞社
評価方法	毎回の授業で提出された課題にもとづき、各回のテーマである基本点画を中心に、基礎的な書写技能の達成度により評価する。
自己学習に 関する指針	・前時の学習を振り返って、本時の課題のポイントを確認しておきましょう。　・ 授業で学習した楷書の基本点画を、日常の文字書写の場面で積極的に活用しましょう。
履修上の 指導・留意点	・履修希望者が 30 名を超える場合、人数を制限することがあります。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（小学校教諭）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	書道Ⅱ（発展）						
担当教員	福田哲之						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3020360
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・書道（書写を中心とする。）						

授業の概要	行書の古典の中から東晋・王羲之の「集字聖教序」を取り上げ、臨書を通して行書の基本的な技法を習得する。授業は毛筆による半紙練習を主とし、個別指導を中心に展開する。
授業の 到達目標	・行書の特徴について理解する。 ・行書の基本的な技法を習得する。 ・授業で習得した技法を日常の文字書写にも生かすことができるようにする。
授業計画	第１回　授業の進め方・用具・教材についての説明（用具は第２回から使用） 第２回　起筆（１）楷書と共通する筆法 第３回　起筆（２）行書特有の筆法 第４回　終筆（１）横画の終筆 第５回　終筆（２）縦画の終筆 第６回　終筆（３）左はらい 第７回　終筆（４）右はらい 第８回　転折（１）丸みのある運筆 第９回　転折（２）円転と連続 第 10 回　点画の連続（１）虚画の実線化 第 11 回　点画の連続（２）空白の変化 第 12 回　点画の省略（１）基本的な略法 第 13 回　点画の省略（２）一字の構成 第 14 回　筆順の変化（１）点画の省略と筆順 第 15 回　筆順の変化（２）字形と筆順 まとめ・課題提出
テキスト	「集字聖教序」から各回のテーマに応じた課題をプリントして配布する。
参考文献	『教えて先生書の基本』、『墨』編集部編、芸術新聞社
評価方法	毎回の授業で提出された課題にもとづき、各回のテーマである行書の技法を中心に、基礎的な書写技能の達成度を評価する。
自己学習に 関する指針	・前時の学習を振り返って、本時の課題のポイントを確認しておきましょう。　・ 授業で学習した行書の書き方を、日常の文字書写の場面で積極的に活用しましょう。
履修上の 指導・留意点	・履修希望者が 30 名を超える場合、人数を制限することがあります。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（小学校教諭）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	日本文化特殊講義						
担当教員	木場貴俊						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020370
免許資格関連事項							

授業の概要	「怪異」あるいは「妖怪」と表現される物事を歴史学的に理解することを目標とする。具体的には、「怪異」や「妖怪」に関して、単純に「いる・いない」と二項対立的に捉えるのではなく、「なぜ人々はそうした物事を記録し、また対応したのか」という、人のいとなみとして考察する。日本近世の状況を中心に見ていくが、古代・中世、そして近現代との関連性についても取り上げる。史料も文字史料だけではなく、絵画や映像などを使うことで、多角的に理解できる内容にする。
授業の到達目標	・一見歴史研究の対象とならないように思える物事でも、学問的手続きを踏めば研究対象にすることが可能となる歴史学の手法を学ぶことができる。 ・現代の「怪異」や「妖怪」に対するイメージが不変ではなく、時代や社会状況に応じて異なっていることを理解することで、現代の社会認識＝常識を相対化する視点を持つことができる。 ・歴史学だけでなく、民俗学や国文学、美術史などさまざまな学問分野を応用することで、多角的に歴史を考察していく醍醐味を知ることができる。
授業計画	第１回　はじめに―「怪異」あるいは「妖怪」を考える、ということ 第２回　歴史的産物としての「妖怪」 第３回　近代の「妖怪」をめぐって－井上圓了・江馬務・藤澤衛彦・柳田國男－ 第４回　現代の通俗的「妖怪」－水木しげる－ 第５回　古代の「怪異」　奈良時代 第６回　古代の「怪異」　平安時代 第７回　中世の「怪異」　鎌倉時代 第８回　中世の「怪異」　室町時代 第９回　中世の「怪異」　化物の登場 第 10 回　近世の「怪異」　政治との関わり 第 11 回　近世の「怪異」　描かれる「怪異」 第 12 回　近世の「怪異」　学問と宗教 第 13 回　近世の「怪異」　文芸と「怪異」 第 14 回　近世の「怪異」　遊ばれる「怪異」 第 15 回　まとめ　近世から近代へ 定期試験
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	出席点（25%）、筆記試験（75%）
自己学習に関する指針	配布資料、および紹介された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	集中講義なので、気持ちを集中させて授業を受けること。

授業科目	日本語学概論Ⅰ						
担当教員	高橋純						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	コース必修	単位数	2	授業コード	M3020380
免許資格関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）						

授業の概要	他の言語と比較対照しながら、世界の中の日本語（口語を含む）がどのような言語かということを概観する。高校までは、外国語は英語しか学んでいない人が多いが、英語との対比のみで、日本語の特殊性を語ることの安直さを避け、様々な言語と比較対照することで、日本語への偏見（欲目 or 卑下）をなくし、言語そのものの性質を学ぶことを目的とする。具体的には、目標として、音声（子音・母音体系）・文字の体系・文構造（述語構造・副文構造・結束性 etc.）を学び、日本語の特徴を考える。この授業は、「日本語文法論」や「対照文法」などの基礎となる。
授業の到達目標	・現代日本語の特徴を 10 個以上挙げられるようなる。 ・日本語は世界的に珍しい言語ではないということを理解する。
授業計画	第１回　オリエンテーション・「日本語」とそのバリエーション・「日本語」の定義 第２回　「日本語」について 第３回　日本語の発音（子音：IPA を参照しながら） 第４回　日本語の発音（母音：IPA を参照しながら） 第５回　日本語の音韻 第６回　日本語の音節構造（モーラとシラビーム） 第７回　アクセント 第８回　日本語の文字 第９回　語彙 第 10 回　語構造 第 11 回　文構造（述語構造を中心） 第 12 回　文構造（副文構造） 第 13 回　文章表現（結束性） 第 14 回　言語生活 第 15 回　復習 定期試験
テキスト	テキストは使用しない。適宜、プリントを配布。
参考文献	日野資成（2009）『ベーシック現代の日本語学』ひつじ書房 斎藤純男（2010）『言語学入門』三省堂
評価方法	期末テスト 60%、小テスト 40%で評価する。小テストは、授業が終了する毎に、CBT にておこなう。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	英語以外の外国語を履修していると理解しやすいと思われるので、積極的に外国語の授業を履修することをお勧めする。

授業科目	日本語学概論Ⅱ						
担当教員	山村仁朗						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	コース必修	単位数	2	授業コード	M3020390
免許資格関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）						

授業の概要	日本語学概論Ⅰに続き、日本語学の基礎を学ぶ。日本語の特徴および日本語研究についての基礎的な知識を修得し、日本語についての理解を深める。特に日本語学概論Ⅱでは現代日本語だけでなく、いろは歌・万葉仮名（音韻史）、古辞書（語彙史）、動詞活用の変遷（文法史）など日本語の歴史的側面にも注目する。また、山陰地方のことばを中心にして方言の概説を行う。この授業は「日本語史」や「日本語文法論」「地域とことば」などの基礎となる。
授業の到達目標	（１）音声と音韻の特徴を説明することができる。 （２）文字と表記の特徴を説明することができる。 （３）語彙と意味の特徴を説明することができる。 （４）文法と文体の特徴を説明することができる。 （５）方言の特徴を説明することができる。
授業計画	第１回：導入　　世界の言語からみた日本語 第２回：音声と音韻（１）清音と濁音・アクセント 第３回：音声と音韻（２）いろはうた・五十音図・四つ仮名の混同 第４回：文字と表記（１）漢字 第５回：文字と表記（２）万葉仮名・ひらがな・カタカナ 第６回：語彙と意味（１）和語・漢語・外来語 第７回：語彙と意味（２）語義と語構成 第８回：語彙と意味（３）辞書と古辞書 第９回：文法（１）語と文 第 10 回：文法（２）品詞と文の成分 第 11 回：文法（３）動詞活用の変遷 第 12 回：文法（４）文の種類と構造 第 13 回：文体　　和文体と漢文訓読体／口語体と文語体 第 14 回：方言（１）共通語と方言 第 15 回：方言（２）山陰地方の方言 定期試験
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考文献	築島裕（1964）『国語学』（東京大学出版会） 沖森卓也ほか（2006）『図解日本語』（三省堂）
評価方法	定期考査（70%）、毎回のコメントカードの内容（30%）
自己学習に関する指針	復習を心掛けてください。
履修上の指導・留意点	質問はオフィスアワーに受けつけます。

授業科目	日本語文法論						
担当教員	高橋純						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020400
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）						

授業の概要	日本語の文法構造の詳細を学ぶことを目的とする。日本語学概説Ⅰ・Ⅱが履修されて基礎的な内容を理解していることを前提に進められる。内容は、現代の日本語学の中においてよく扱われている文法カテゴリー（「主語」「時制・アスペクト」「態」「モダリティ」「副文構造の特徴」「否定」「指示詞」etc.）を対象として、その振る舞いを学ぶだけでなく、これらの対象を扱う際に何に注意して考えるべきなのかを問いながら、自分自身で日本語の文法について考えられるようになることを到達目標とする。
授業の 到達目標	・日本語の文をみて、どのような構造の文であるかを簡単に説明できるようになる。 ・文法カテゴリーから具体的な文を作ることができるようなる。
授業計画	第１回　オリエンテーション・「日本語」の定義 第２回　用言について（動詞の特徴） 第３回　用言について（形容詞・形容動詞の特徴） 第４回　名詞と形容詞と形容動詞と動詞（品詞の特徴の比較） 第５回　助詞について（格助詞） 第６回　「受け身」について 第７回　「受け身」以外の態について 第８回　テイル形とタ形 第９回　助動詞について（語順とからめて） 第 10 回　助詞について（副助詞） 第 11 回　「は」と「が」について 第 12 回　副詞について 第 13 回　助動詞とモダリティ 第 14 回　終助詞とモダリティ 第 15 回　復習 定期試験
テキスト	特になし。 必要に応じて、プリントを配布する。
参考文献	会田貞夫　他（2004）『学校でおしえてきている現代日本語の文法』右文書院 天野みどり（2008）『学びのエクササイズ　日本語文法』ひつじ書房 藤原雅憲（1999）『よくわかる文法』アルク 井上優（2002）『日本語文法のしくみ』研究社
評価方法	小テスト 40%、期末テスト 60%の割合で成績を出す。小テストは、授業時間後に毎回、CBT にておこなう。
自己学習に 関する指針	授業に出る前に参考文献にあげてある文献を最低１冊は読んでおいてほしい。
履修上の 指導・留意点	電子辞書で構わないので、授業には辞書を持参していただきたい。

授業科目	日本語史						
担当教員	百留康晴						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020410
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）						

授業の概要	日本語は漢字、平仮名、片仮名という三種類の文字、和語、漢語、外来語という三種類の語彙を有している。このような状況は歴史的経緯によってもたらされたものである。また文法、音韻、文体の面でも日本語には多くの歴史的変遷が見られる。この授業ではそのような日本語の歴史について学んでいく。
授業の 到達目標	・各時代における日本語の姿に関する知識を身に付ける。 ・日本語の変遷における背景や要因、傾向を理解することができる。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　漢字の受容過程 第３回　上代特殊仮名遣いと古代の音韻 第４回　仮名の発生と文体の多様化 第５回　平安時代における文体と語彙 第６回　平安時代における文法 第７回　鎌倉・室町時代以降生じる文法の変化（１）係り結び 第８回　鎌倉・室町時代以降生じる文法の変化（２）活用 第９回　仮名遣いの発生と音韻変化　（１）定家仮名遣い 第 10 回　仮名遣いの発生と音韻変化（２）契沖仮名遣い 第 11 回　漢語・外来語の増加 第 12 回　江戸語の姿 第 13 回　明治時代における話し言葉の統一 第 14 回　明治時代における言文一致運動 第 15 回　まとめ 定期試験
テキスト	特になし。
参考文献	佐藤武義編『概説日本語の歴史』朝倉書店、山口仲美『日本語の歴史』岩波書店 沖森卓也『日本語全史』筑摩書房、杉本つとむ『東京語の歴史』中央公論社
評価方法	授業中に課す小レポートが２０％、定期試験の成績を８０％ととして評価する。６回以上欠席した場合は成績評価の対象外とする。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	地域とことば						
担当教員	高橋純						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020420
免許資格関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）						

授業の概要	言語というものが地域によってどのような展開を見せるのかを、地域社会との関係を通して学ぶことを目的とする。地域の特徴（行政や方言分布）によって、言語の変化にも影響が及ぼされる。地域ごとにさまざまな現象があるので、海外の事例なども踏まえ、本学が位置する島根県の方言などを取り上げながら、地域の言語を考えていく。島根県は、出雲方言と石見方言とで大きく異なっているが、県庁所在地が位置する松江は出雲方言の地域に位置していることから、石見方言にも影響を及ぼしている例などを扱う。また、世界に目を向けどのような言語状況があるのかも概観する。
授業の到達目標	・言語とは、その状況によって、変化するということを理解する。 ・ある言語の基準というものは、その言語が依拠する条件によって決まるという事実を理解する。
授業計画	第１回　ことばが話される場について 第２回　ことばのバリエーション 第３回　共通語と標準語 第４回　方言と標準語 第５回　国と言語 第６回　日本語の標準語とは 第７回　日本の方言 第８回　山陰の方言 第９回　方言の世代差 第 10 回　社会状況による方言の地域差 第 11 回　言語接触と変化 第 12 回　風土とことば 第 13 回　経済とことば 第 14 回　人口とことば 第 15 回　まとめ
テキスト	特になし。
参考文献	井上史雄（2008）『社会方言学考：新方言の基盤』明治書院 佐野直子（2015）『社会言語学のまなざし』三元社 中井精一（2012）『都市言語の形成と地域特性』和泉書院
評価方法	授業参加度（40%）と学期末レポート（60%）を総合して評価する。 授業参加度の評価は、毎回の授業ごとに提出するコメントカードを用いる。そこに授業で説明したことに対して発展的に質問してもらいたい。
自己学習に関する指針	日常生活において、言語的に不思議だと思った現象・状況・事態などを自分なりに集め、授業をとおして、疑問が解決できるかどうかを考えてみよう。
履修上の指導・留意点	コメントカードを毎回提出してもらうが、コメントカードの内容で、各回の授業の理解度をはかりたい思っているので、コメントカードもまじめに書いていただきたい。

授業科目	対照文法						
担当教員	高橋純						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020430
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）						

授業の概要	日本語に形式的には現れないが、日本語に内在するカテゴリーを、外国語との比較対照をとおして可視化しながら学ぶことを目的とする。自然言語は、外見上多様であるが、人間の認知的な部分が反映されている場合が多く、このような部分を意識化し、日本語に形式的に現れない文法について学ぶ。特に、欧米言語の冠詞の意味を結束性という概念を通して理解し、日本語ではどのように表現されているのかを見たり、時制とアスペクトの対比で日本語ではこれらのカテゴリーがどのように機能しているのかなどを学ぶ。
授業の 到達目標	・日本語文法を形態のみからでなく、意味的な部分でも説明できるようになる。 ・高校までで習ってきた英語文法とあわせて、日本語と英語の相違点を説明できるようになる。
授業計画	第１回　オリエンテーション・世界の中の日本語（系統的な分類と類型論的な分類など） 第２回　品詞について（名詞：性・数） 第３回　品詞について（動詞：活用） 第４回　品詞について（形容詞・形容動詞） 第５回　語順について（格との関係） 第６回　主語と動作主 第７回　時間に関する形式 第８回　ムードに関する形式 第９回　定性について 第 10 回　文と文をつなげる構造（接続詞） 第 11 回　文と文をつなげる構造（従属節） 第 12 回　文と文をつなげる構造（指示詞） 第 13 回　文と文をつなげる構造（語順・冠詞） 第 14 回　情報構造について（構文の交替の意味） 第 15 回　情報構造について 定期試験
テキスト	特になし。
参考文献	以下の文献は、英語と対照した文献であるが、対照文法とはどのようなものであるかを理解するため読んでおいてほしい。また、勉強を進める上の読書案内も充実している。 畠山雄二（2016）『徹底比較　日本語文法と英文法』くろしお出版
評価方法	授業への参加度を 40%、期末テストを 60%の割合で評価をおこなう。 授業への参加度は、毎回の授業の最後に課題を出し、それへの解答で判断する。
自己学習に 関する指針	外国語学習をとおして、疑問に感じたことを自分なりにまとめておこう。
履修上の 指導・留意点	英語以外の外国語の学習が役に立つので、積極的に外国語の授業を履修することをお勧めする。

授業科目	日本語学演習Ⅰ						
担当教員	高橋純						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	３・４（隔年開講）	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020440
免許資格関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）						

授業の概要	現代日本語を対象とした学校文法を取り上げ、現在日本語学で行われている文法とどのような関係にあるのかを明確することを目標とする。学校文法は、学校教育の中で広くおこなわれ教えられているため、日本語学における文法を学ぶ上でも非常に重要であるが、それらの発展の仕方は大きく異なっていため、学校文法が現代日本語文法論の中でどのように重なり、違うのかが、学習者にわからない。そこで、学校文法を出発点にして、現代日本語文法では、その部分がどのように記述されており、なぜ学校文法と異なる分析になるのかを学ぶ。
授業の到達目標	・学校文法をきちんと身につける ・学校文法の用語を日本語学文法の用語と対比させ、両者の異同について簡単に説明できるようになる。
授業計画	第１回　「学校文法」と「現代日本語文法」について 第２回　「学校文法」のおさらい 第３回　「文節」について（アクセントとの関係） 第４回　「文節」について（構文論との関係） 第５回　「文節」について（語について） 第６回　用言にいて（動詞の活用形を考える） 第７回　用言について（形容詞・形容動詞の活用形：学校古典文法との比較をとおして） 第８回　品詞について（形容動詞の活用と助詞について） 第９回　品詞について（形容動詞と形式名詞について） 第 10 回　「主語」について（主語という概念について：学校英文法との比較をとおして） 第 11 回　「主語」について（「主語」の形式について） 第 12 回　「述語」について（形容詞類の名詞性と動詞性） 第 13 回　「終止形」と「連体形」について 第 14 回　「接続詞」について 第 15 回　「副詞」について 定期試験
テキスト	特に使用しない。
参考文献	会田貞夫・中野博之・中村幸弘（2004）『学校で教えてきている現代日本語の文法』右文書院 山田敏弘（2004）『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版 山田敏弘（2009）『国語を教える文法の底力』くろしお出版
評価方法	期末テスト 60%、小テスト 40%で評価する。小テストは、授業が終了する毎に、CBT にておこなう。
自己学習に関する指針	小テストは、復習だけではなく、次回の授業への架け橋となるので、しっかりと考えて解くこと。
履修上の指導・留意点	高等学校で使用した「国語便覧」があると便利である。また、電子辞書でも構わないので、授業には、辞書を持ってくること。

授業科目	日本語学演習Ⅱ						
担当教員	山村仁朗						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	３・４（隔年開講）	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020450
免許資格関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）						

授業の概要	柳田国男『毎日の言葉』を読解することを通して、日本語の分析方法を修得することを目標とする。本書に挙がる語彙のうちの一つを学生各自が担当し、本文の要約を行ったうえで、辞書や索引を手掛かりに最古の用例に遡り、その語が本来どのような意味の語であるかを考察する。また日本語史上の変遷を辿り、その語を現代において私たちがどのように所有しているかを検討する。日本語学演習Ⅱでは、現代語だけでなく古典語も考察の対象とする。
授業の到達目標	（１）用例の収集ができる。 （２）日本語資料の性格を説明することができる。 （３）日本語の分析ができる。
授業計画	第１回：柳田国男と日本語 第２回：日本語史の時代区分 第３回：日本語史の資料と発表の手順 第４回：学生による発表①　「オ礼ヲスル」 第５回：学生による発表②　「有難ウ」 第６回：学生による発表③　「スミマセン」 第７回：学生による発表④　「モッタイナイ」 第８回：学生による発表⑤　「イタダキマス」 第９回：学生による発表⑥　「タベルとクウ」 第１０回：学生による発表⑦　「オイシイとウマイ」 第１１回：学生による発表⑧　「クダサイとオクレ」 第１２回：学生による発表⑨　「モライマス」 第１３回：学生による発表⑩　「イル・イラナイ」 第１４回：学生による発表⑪　「モシモシ」 第１５回：まとめ
テキスト	柳田国男『毎日の言葉』（角川文庫）
参考文献	・『定本　柳田国男集』第１８・１９巻（筑摩書房） ・阪倉篤義『日本語の語源』（平凡社ライブラリー） ・佐竹昭広『古語雑談』（平凡社ライブラリー）
評価方法	発表（70%）、学期末レポート（30%）
自己学習に関する指針	自分の発表は入念に準備してください。そうでない場合も予めテキストを読み、質問を準備しておいてください。
履修上の指導・留意点	「日本語学概論Ⅰ」「日本語学概論Ⅱ」を受講していることを前提に授業を進めます。 質問はオフィスアワーに受け付けます。前もって、メールで連絡をしてください。 y-yamamura@u-shimane.ac.jp

授業科目	日本語学特殊講義						
担当教員	内田賢徳						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020460
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）						

授業の概要	萬葉ことばの意味世界について考察する。萬葉集に代表される七、八世紀の日本語は、九世紀以後の日本語と異なる点が多々ある。平仮名の中に住むようになった平安朝以後の日本語世界と、漢字のみで表記した日本語のあり方は異質な面が見られる。それらを具体的な語の意味の解明を通して知ることが出来るように講述する。毎回作成する配布資料に従って進めるが、それ以外に現代語の用法について課題を提示して、コメントを提出してもらう。古代語について知ることと現代語について反省をもつことは、ことばを考えることの両輪である。
授業の 到達目標	・萬葉集のことばの解明を通して、日本語本来の意味のあり方を実感できるようになることを目標とする。
授業計画	第１回　「萬葉ことば」とは何を指すのか。 第２回　「天地―あめつち」について 第３回　空間を表す語１「まへ・うしろ」 第４回　空間を表す語２「うへ・した・みぎ・ひだり」 第５回　時間を表す語 第６回　「こころ」と「身」１　その原義 第７回　「こころ」と「身」２　その展開 第８回　「思ふ」と「恋ふ」 第９回　「偲ふ―しのふ」 第 10 回　「あはれ」 第 11 回　「生きる」と「死ぬ」「消ゆ」 第 12 回　「やさし」１　その原義 第 13 回　「やさし」２　ある資料の誤り 第 14 回　「かなし」１　悲と愛 第 15 回　「かなし」２　モーツアルトは萬葉のようにかなしい 定期試験
テキスト	なし。資料を配付する。
参考文献	阪倉篤義著　内田賢徳解説『日本語の語源』平凡社ライブラリー　2011 年
評価方法	講義内容について試験を行い、理解度を評価、また講義時に発言を求めて評価の一端とする。
自己学習に 関する指針	配付資料をよく読み返して、講義内容を復習すること。参考文献として指定した著作を読むこと。
履修上の 指導・留意点	私語は他の受講者の受講する権利と自由の侵害である。慎むこと。

授業科目	日本文学史Ⅰ（古典）						
担当教員	山村桃子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	コース必修	単位数	2	授業コード	M3020470
免許資格関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	日本の古典文学史を通史的に把握し、日本の古典文学を研究するために必要な基礎的知識を修得する。平安中期に成立した『源氏物語』を軸として、成立以前と以後に分け、上代から近世までの代表的な古典文学作品を実際に読み進めながら、表現の摂取及び展開とその文学史的意義を考察する。また、古典文学の読解のために必要な知識（歴史的仮名遣い・古語・文化習俗・歴史的背景など）についての確認を行う。
授業の到達目標	・日本の代表的な古典文学作品の概略が説明できるようになる。 ・日本の古典文学史の展開が説明できるようになる。 ・古文の正確な音読ができるようになる。
授業計画	第１回　ガイダンス、神話から初期物語へ 第２回　古代物語の主人公―古事記・竹取物語 第３回　継子物語の展開―落窪物語・住吉物語 第４回　日記文学の展開―土佐日記・蜻蛉日記 第５回　歌物語の展開―伊勢物語・大和物語・平中物語 第６回　『源氏物語』第一部の素材と構成（人物造型） 第７回　『源氏物語』第二部の素材と構成（物語の構想） 第８回　『源氏物語』第三部の素材と構成（心理描写） 第９回　随筆文学―枕草子・徒然草・方丈記 第 10 回　平安後期物語―堤中納言物語・浜松中納言物語 第 11 回　歴史物語―栄花物語・大鏡 第 12 回　和歌―八代集・紫式部集 第 13 回　謡曲―夕顔・葵の上 第 14 回　仮名草子・浮世草子―仁勢物語・好色一代男 第 15 回　読本・草双紙―雨月物語・偐紫田舎源氏 定期試験
テキスト	秋山虔・三好行雄編『原色シグマ新日本文学史増補版』文英堂
参考文献	授業中に指示する
評価方法	定期試験（80%）、読書レポート（20%）によって評価する。
自己学習に関する指針	授業で取り上げた古典文学を積極的に読んで下さい。読書レポートを作成してもらいます。
履修上の指導・留意点	手持ちの文法書、古語辞典を持参してください。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校）での勤務経験に基づき、学生が国語科教員として必要な知識・技能を修得できる授業を行う。

授業科目	日本文学史Ⅱ（近代）						
担当教員	岩田英作						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	コース必修	単位数	2	授業コード	M3020480
免許資格関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	明治から現代に至る日本近代文学の歴史を学び、各時代の状況と文学との関わりを知り、時代によって様々な状況に置かれた人間の生き方について理解を深めることを目標とする。講義にあたっては、文学史の説明に合わせ、より実感的にその歴史を理解するために、各時代における主要な作品（おもに小説）を実際に読みながら進めていく。作品の読解にあたっては、グループでの話し合いや発表などを取り入れ、双方向的に授業を行う。
授業の到達目標	①日本の近代文学について通史的に理解する。 ②近代文学を研究するために必要な基礎的知識を修得する。
授業計画	第１回　ガイダンス、江戸から明治へ 第２回　近代文学理論の提唱と実践 第３回　浪漫主義その１～森鷗外ほか～ 第４回　浪漫主義その２～夏目漱石ほか～ 第５回　自然主義～田山花袋ほか～ 第６回　耽美主義～谷崎潤一郎ほか～ 第７回　理想主義～志賀直哉ほか～ 第８回　大正諸系流～芥川龍之介ほか～ 第９回　プロレタリア文学～葉山嘉樹ほか～ 第 10 回　新戯作派～太宰治ほか～ 第 11 回　戦後の作家その１～大岡昇平ほか～ 第 12 回　戦後の作家その２～安部公房ほか～ 第 13 回　現代の作家その１～大江健三郎ほか～ 第 14 回　現代の作家その２～よしもとばななほか～ 第 15 回　現代の作家その３～村上春樹ほか～ 定期試験
テキスト	プリントによる
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	コメントシート（30%）と期末の試験（70%）を総合して評価する。
自己学習に関する指針	講義で取り上げた作家・作品の中から関心のあるものを見つけ、積極的に作品を読んでみることが望ましい。
履修上の指導・留意点	本科目は近代文学を理解するうえで基礎となる科目である。この分野に関心のある学生にはぜひ履修してほしい。

授業科目	古典文学Ⅰ（神話と伝説）						
担当教員	山村桃子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020490
免許資格関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	日本古典文学のうち、神話と伝説について取り上げ、読解を行う。『古事記』の出雲神話及び『出雲国風土記』の国引き神話などについて、上代語と神話表現の特質、及び地理的環境や古代史を踏まえ、作品の構造と成立の文学史的意義について考察する。また、神話との連続性をもつ伝説について、『風土記』、『万葉集』及び松江の伝説を取り上げ、話型論、歴史、習俗、古語をふまえた考察を行う。
授業の到達目標	・記紀・風土記の内容と成立を学び、時代背景と神話が担う意味をふまえて理解する。 ・神話・伝説の解釈の方法を学び、また地域とのかかわりを理解する。
授業計画	第１回　『古事記』『日本書紀』『風土記』の成立 第２回　天地初発と国生み―神名の意義 第３回　黄泉国訪問―『古事記』の世界観 第４回　八岐大蛇退治―自然から文化への主題 第５回　国譲り―出雲神話を考える 第６回　海神の宮訪問―神話から昔話へ 第７回　国引き神話―島根半島の創造 第８回　伝説とは何か 第９回　風土記における伝説 第 10 回　万葉集における伝説 第 11 回　小野小町・和泉式部伝説 第 12 回　松江の伝説（１）事代主と恵比須さん 第 13 回　松江の伝説（２）六日の菖蒲 第 14 回　松江の伝説（３）松江大橋と源助 第 15 回　神話と伝説についての総括
テキスト	中村啓信訳注『新版　古事記　現代語訳付き』角川ソフィア文庫
参考文献	西郷信綱『古事記の世界』岩波新書
評価方法	期末レポート（80%）、ワークシート（20%）
自己学習に関する指針	島根県には、黄泉比良坂、須我神社、美保神社、出雲大社などの出雲神話にゆかりの地が多くあります。授業で取り上げる伝説の地も含めて、４年間でなるべく実地見学に行ってほしいと思います。
履修上の指導・留意点	なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校）での勤務経験に基づき、学生が国語科教員として必要な知識・技能を修得できる授業を行う。

授業科目	古典文学Ⅱ（歌謡と和歌）						
担当教員	山村桃子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020500
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	日本古典文学のうち、特に歌謡と和歌について取り上げ、その読解の方法を学ぶことを目標とする。「うた」とは何か、また歌が生成する場を考え、人間にとって歌とは何かを考察する。また、時代ごとの表現方法の展開について、先行研究をふまえながら個別の歌の分析を通して考察をおこなう。歌は記紀歌謡、万葉集、八代集、梁塵秘抄から歌謡・和歌を取り上げる。加えて、歌物語や歌合についての基礎的知識を身に付ける。
授業の 到達目標	・様式や技法などの基礎的知識をふまえて歌謡と和歌の解釈することができる。 ・日本古典文学における和歌史を説明することができるようにする。
授業計画	第１回　教科書に載る和歌 第２回　古事記の歌謡１ 第３回　日本書紀の歌謡２ 第４回　万葉集の長歌１　天皇の歌 第５回　万葉集の長歌２　柿本人麻呂の歌 第６回　万葉集の短歌１　恋の歌 第７回　万葉集の短歌２　自然の歌 第８回　万葉集の短歌３　人生の歌 第９回　八代集　春の歌 第 10 回　八代集　夏の歌 第 11 回　八代集　秋の歌 第 12 回　八代集　冬の歌 第 13 回　歌物語 第 14 回　歌合 第 15 回　民謡 定期試験
テキスト	・各自の古典文法のテキスト、古語辞典（電子辞書可） ・適宜資料を配付する
参考文献	渡部泰明『和歌とは何か』岩波新書 他
評価方法	定期試験（80%）、毎回のワークシート（20%）による。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校）での勤務経験に基づき、学生が国語科教員として必要な知識・技能を修得できる授業を行う。

授業科目	古典文学Ⅲ（物語と説話）						
担当教員	福田景道						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020510
免許資格関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	日本古典文学のうち，特に中古・中世の物語文学，中世・近世の歴史文学を取り上げる。 日本古典文学史全体の流れを概観した上で，まず中古・中世の作り物語の中から『竹取物語』『源氏物語』『堤中納言物語』『我身にたどる姫君』を取り上げて，その文学的価値を探究する。それを踏まえて，各作品の姫君たちが子どもから大人になる経緯を対比して，王朝文学の本質に迫る。次に，作り物語の後継者としての中世・近世の歴史物語に注目し，『増鏡』『梅松論』『月のゆくへ』『池の藻屑』などの文学史的意義や特質を概観しながら，作品の読まれ方や読者の実相を明示する。
授業の到達目標	⑴日本古典文学史の基礎的事項，作り物語・歴史物語諸作品の文学史的意義，価値，面白さを，簡潔に説明できる程度に理解する。 ⑵『竹取物語』『源氏物語』『堤中納言物語』などの「姫君」に注目して，物語文学の価値を追究する。 ⑶『増鏡』『梅松論』などの中世以降の歴史物語の特性を理解するる。 ⑷文学の享受の実態，文学教育のあり方，日本文化の特性について考える。
授業計画	第１回　はじめに―日本文学史と古典（古文）教育― 第２回　日本古典文学史の構想―中世・近世の物語文学と説話文学を中心に― 第３回　作り物語の成立―『竹取物語』の形成と竹取の翁― 第４回　作り物語の確立―『竹取物語』の達成とかぐや姫― 第５回　作り物語の完成―『源氏物語』の享受と紫の上― 第６回　作り物語の到達―『堤中納言物語』の虫めづる姫君― 第７回　作り物語の変容―中世王朝物語（擬古物語）と説話文学― 第８回　物語世界の姫君たち―かぐや姫・紫の上・虫めづる姫君・我身にたどる姫君― 第９回　歴史物語と説話文学―物語文学の新展開― 第10回　中世歴史物語の虚構性―伝統を保持する『増鏡』― 第11回　中世歴史物語の新奇性―新時代に向かう『梅松論』― 第12回　幻の歴史物語『弥世継』を探す―和書の世界に触れる― 第13回　近世歴史物語の世界―荒木田麗女の『池の藻屑』と『月のゆくへ』― 第14回　歴史物語と説話文学―『大鏡』と『今昔物語集』― 第15回　まとめ―神々の国の「物語」と「歴史」― 定期試験
テキスト	資料を毎回配付する（A4判・約60頁）。
参考文献	古典本文（活字又は複製）・論説・図表・参考文献目録等を必要に応じて配布する。 また，授業の要点をまとめた空欄補充式「授業概要シート」を適宜配付する。
評価方法	成績の評価は，次の⑴⑵の合計得点による。⑴と⑵の比率は，３：１。 ⑴定期試験（期末１回，筆記）…試験問題は，到達目標の達成度を問うもので，授業の最終日近くにその趣旨等を説明する。 ⑵課題試験（中間試験）…前もって課題・問題集を配布し，その中から出題する。
自己学習に関する指針	・刊行された文献やウェブ検索によってこの授業の内容を知ることは難しいので，配付資料によって復習してください。

履修上の 指導・留意点	・高等学校卒業程度の基礎知識は，配付資料の中で補います。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校、高等専門学校、各種学校等）での勤務経験を活かして教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	近代文学Ⅰ（郷土文学）						
担当教員	岩田英作						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020520
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	島根にゆかりのある①民話、②小説、③詩について、鑑賞と解釈を通して、地域の文化・風土、その土地の人の生き方に対する理解を深めることを目標とする。①民話について、約半世紀前に採集された出雲・石見・隠岐各地方に伝わる民話の語りを鑑賞し、民話の意義や特質について理解を深める。②小説について、専門基幹科目「しまねの文学探訪」で訪れた地域にゆかりのある作品について、さらに理解を深める。③詩について、島根出身の詩人の作品を鑑賞し、風土との関連などについて考察する。
授業の 到達目標	①島根ゆかりの近代文学について基本的な知識を修得する。 ②島根ゆかりの文学と、その土壌となる郷土の文化や風土との関連について理解を深める。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　島根の民話その１（隠岐） 第３回　島根の民話その２（出雲） 第４回　島根の民話その３（石見） 第５回　島根の民話を語る 第６回　島根の小説その１（森鷗外） 第７回　島根の小説その２（小泉八雲） 第８回　島根の小説その３（志賀直哉・里見弴） 第９回　島根の小説その４（芥川龍之介・井川恭） 第１０回　島根の小説その５（須藤鐘一・田畑修一郎） 第１１回　島根の小説その６（阿部知二・三浦浩） 第１２回　島根の小説その７（井伏鱒二・松本侑子） 第１３回　島根の詩その１（千家元麿・入沢康夫） 第１４回　島根の詩その２（田村のり子・郷原宏） 第１５回　島根の詩その３（島根の同人詩誌） 定期試験
テキスト	プリントによる
参考文献	『ＣＤで楽しむふるさとの昔話ー隠岐・出雲・石見ー』（今井書店）ほか
評価方法	コメントシート（50%）と期末の試験（50%）を総合して評価する。
自己学習に 関する指針	講義で紹介した文学作品を積極的に読み、時にはゆかりの土地を訪ねて空気を感じてみるとよい。
履修上の 指導・留意点	専門基幹科目「しまね文学探訪」（1 年春学期）を履修しておくことが望ましい。 島根で国語教員を目指す学生には、本科目の履修を特に勧める。

授業科目	近代文学Ⅱ（小説）						
担当教員	田中俊男						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020530
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	教科書定番作品、学校を舞台とする作品などを中心に短編小説を取り上げる。作者の人となりを解説し、作品が生まれた背景を作者の人生と合わせて考えたり、時代状況と作品に描かれた状況を比較したりする。また作品の構造を図式化し、どのような仕組みによって物語が作られているかを考える。
授業の 到達目標	日本近代文学についての理解を深め、テキスト解読の方法を学ぶことを目的とする。小説作品の多様な意味が生まれるプロセスを経験し、より深く、より豊かな読みが実践できるようにする。
授業計画	第１回　夏目漱石　人と作品 第２回　夏目漱石「こころ」 第３回　夏目漱石「こころ」 第４回　野坂昭如「火垂るの墓」 第５回　森鷗外「高瀬舟」 第６回　志賀直哉「濠端の住まい」 第７回　芥川龍之介「羅生門」 第８回　太宰治「走れメロス」 第９回　安房直子「白いおうむの森」 第 10 回　山田詠美「海の方の子」 第 11 回　重松清「ワニとハブとひょうたん池で」 第 12 回　角田光代「転校生の会」 第 13 回　角田光代「ジミ、ひまわり、夏のギャング」 第 14 回　江国香織「すいかの匂い」 第 15 回　村上春樹「鏡」 期末試験
テキスト	小説をコピーして配布する。
参考文献	特になし。 必要なプリントは授業中に配布する。
評価方法	期末試験の成績によって行う。
自己学習に 関する指針	授業を通して関心を持った作家の他作品を読んでみるとよい。大学図書館にも関連作品が多数ある。
履修上の 指導・留意点	小説は原則として前の回に配布するので、できるだけ自宅で読み、必ず次の回に持参すること。

授業科目	近代文学Ⅲ（評論）						
担当教員	古賀洋一						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020540
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	日常生活で触れる機会の多い新聞の投書や評論、政治演説を対象として、批判的な読みを実践できるようになることを目的とする。授業では、批判的読みを実際に体験し、理解を深めながら、協同的に読みを深められるようになることを目指す。国語科教師にとっても、自分自身が文章を批判的に、深く読めるようになることが、授業づくりの土台となる。
授業の 到達目標	・批判的な読みの理論と方法を理解することができる。 ・具体的な文章に即して批判的な読みを実践することができる。 ・他者と協同して批判的な読みを進めることができる。
授業計画	第１回　読書生活を振り返る 第２回　「批判的に読む」とはどういうことか 第３回　文章の「根」と「葉」と「幹」 第４回　議論の方法ー根拠・理由・主張の区別ー 第５回　新聞の投書への批判的読み 第６回　単純な構造を持つ評論への批判的読み 第７回　複雑な構造を持つ評論への批判的読み 第８回　評論を通して社会に向き合う①―経験が持つ説得力― 第９回　評論を通して社会に向き合う②―社会的意義の観点からの批判的読み― 第 10 回　評論を通して環境問題を考える①―二つの評論の比べ読み― 第 11 回　評論を通して環境問題を考える②―二つの評論を統合して自分の考えを生み出す― 第 12 回　政治演説の読み方 第 13 回　グループワーク①―各自の読みの交流― 第 14 回　グループワーク②―各自の読みの統合― 第 15 回　グループワークの成果発表
テキスト	・授業で適宜配布します。
参考文献	・野内良三『レトリック入門―修辞と論証―』世界思想社、2002 年 ・鈴木健・岡部朗一編『説得コミュニケーション論を学ぶ人のために』世界思想社、2009 年
評価方法	・授業の理解度(55%)･･･ワークシートやグループワークをもとに、批判的読みの理解度を評価する。 ・レポート(45%)･･･文章分析と批判の的確さを評価する。
自己学習に 関する指針	・毎回の授業の復習をしっかりと行ってください。 ・授業外でも、色々な投書や評論に目を通してください。
履修上の 指導・留意点	・教職志望者は学習の成果を「履修カルテ」にまとめ、授業で用いた資料等を「学習ポートフォリオ」にとじておくこと。

授業科目	近代文学Ⅳ（絵本と童話）						
担当教員	岩田英作						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020550
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	絵本と童話に関する知識と鑑賞力を養い、児童文学について理解を深めることを目標とする。絵本と童話の歴史を紐解きながら、多種多様な絵本と童話の世界を具体的に鑑賞し、内容を考察する。学内にある児童図書専門図書館「おはなしレストランライブラリー」を利用して、学生による読み聞かせ、ブックトーク（テーマを決めて数冊の絵本・童話を紹介する）やポップの作成を取り入れながら授業を進行する。ストーリーテリングや日本独自の文化である紙芝居についても取り上げる。
授業の 到達目標	①絵本と童話、紙芝居などに関する知識と鑑賞力を身に付け、児童文学に対する理解を深める。 ②読み聞かせやストーリーテリング、ブックトークの魅力や実践方法について理解する。 ③本学の児童図書専門図書館や島根独自の子ども読書支援策について理解する。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　絵本の歴史 第３回　世界の絵本・日本の絵本 第４回　絵本の読み聞かせ 第５回　本学児童図書専門図書館「おはなしレストランライブラリー」について 第６回　島根発、〈読みメン〉の取組について 第７回　童話の歴史 第８回　戦争童話 第９回　新美南吉その１（「てぶくろを買いに」） 第 10 回　新美南吉その２（「ごんぎつね」） 第 11 回　宮沢賢治その１（「注文の多い料理店」） 第 12 回　宮沢賢治その２（「やまなし」） 第 13 回　ストーリーテリングの鑑賞 第 14 回　紙芝居の鑑賞 第 15 回　児童文学と〈生きる力〉 定期試験
テキスト	プリントを利用する。
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	コメントシート（50%）と期末の試験（50%）を総合して評価する。
自己学習に 関する指針	本学児童図書専門図書館「おはなしレストランライブラリー」を積極的に利用し、児童文学を楽しんでみたい。
履修上の 指導・留意点	専門基幹科目「読み聞かせの実践」（2 年春学期）を履修しておくと、本科目に対する理解がさらに深まる。

授業科目	近代文学Ⅴ（詩の鑑賞と創作）						
担当教員	山根道雄						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020560
免許資格関連事項							

授業の概要	日本の現代詩の鑑賞と創作を通して、詩の歴史や表現形式・内容に関する知識を修得し、詩的言語に対する感受性を高めるとともに、言語表現力を培うことを目標とする。鑑賞にあたっては、戦後から現代に至る間の代表的な詩人を選び、定型・自由など様々な形式の詩、人生・恋愛・風刺・ことば遊びなど様々な内容の詩を取り上げ、それぞれの特色を理解する。創作にあたっては、詩を書くことと同時に朗読することにも力を入れ、学生同士で創作した詩について意見交換し、理解を深める。
授業の到達目標	優れた詩作品を鑑賞することで日本語による表現の素晴らしさ・ダイナミズムを実感するとともに、言葉に対するセンスを身につける。また、自ら創作することで、事物を客観的に観察する力や想像力を獲得し、言葉（語）による自分らしい表現を発見する。
授業計画	第１回　授業への導入（詩とは何か？） 第２回　詩の作り方①・現代詩の鑑賞　《課題①詩の創作》 第３回　詩の作り方②・現代詩の鑑賞 第４回　詩の作り方③・課題①の合評（１） 第５回　詩の作り方④・課題①の合評（２）《課題②詩の創作 第６回　現代詩の分類①・現代詩の鑑賞 第７回　現代詩の分類②・課題②の合評（１）《課題③》 第８回　テキストの解読①・課題②の合評（２） 第９回　現代詩の分類③・テキストの解読② 第 10 回　テキストの解読③・課題③のワーキング 第 11 回　テキスト解読④・課題③のワーキング《課題④》 第 12 回　詩集の作り方・現代詩の鑑賞 第 13 回　課題④の合評（１）・現代詩の鑑賞 第 14 回　課題④の合評・作品集の作成（１） 第 15 回　作品集の作成（２）・授業のまとめ
テキスト	荒川洋治著・「詩とことば」（岩波現代文庫）
参考文献	現代詩の鑑賞としてプリントを作成・配布
評価方法	４回提出させる課題の出来映え（１００%）、
自己学習に関する指針	テキストや配付資料を読み、自分に合った形式、リズム、構成等を学び、詩の創作に役立てる。
履修上の指導・留意点	創作課題の合評は、グループ分けをして、それぞれ進行役・記録者を決めて行います。記録者には合評の内容を発表してもらいます。 なお、本講義は実務経験（下記の通り）のある教員による授業科目であり、その経験を活かしてより具体的な授業を展開する。 ・高校生の文学学校での講師 ・文芸作品公募の審査員 ・詩の同人誌の主宰

授業科目	古典文学演習Ⅰ						
担当教員	山村桃子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	３・４（隔年開講）	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020570
免許資格関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	日本最古の和歌集である『万葉集』を読解する。『万葉集』は、支配者の歌、恋の歌、季節の歌、亡き人を悼む歌、旅の歌、東国の歌、防人歌、古伝承を素材にした歌、厳しい生活を詠んだ歌など、収録された歌の内容はきわめて広範囲にわたる。本授業では、『万葉集』における代表的な歌人の歌を各自取り上げ、問題点を設定し、辞書・注釈書・先行論文を用い用例を収集して、自らの解釈を示す。また、近世における万葉集研究と石見国における人麻呂信仰についても考察を行う。
授業の到達目標	・自らの問題意識を持って和歌を読解することができるようになる。 ・先行研究を整理した上で、自ら和歌を解釈することができるようになる。
授業計画	第１回　ガイダンス　『万葉集』歌の解釈の方法 第２回　長歌の形式 第３回　短歌・旋頭歌の形式 第４回　近世における『万葉集』研究 第５回　石見における人麻呂信仰 第６回　演習①　天皇の歌 第７回　演習②　額田王の歌 第８回　演習③　柿本人麻呂の歌１：長歌 第９回　演習④　柿本人麻呂の歌２：短歌 第 10 回　演習⑤　山部赤人の歌 第 11 回　演習⑥　大伴旅人の歌 第 12 回　演習⑦　山上憶良の歌 第 13 回　演習⑧　高橋虫麻呂の歌 第 14 回　演習⑨　大伴家持の歌 第 15 回　演習⑩　東国の歌
テキスト	プリントを配布する
参考文献	神野志隆光・坂本信幸『セミナー万葉の歌人と作品』第一巻～第十二巻（和泉書院） 鈴木日出男『万葉集入門』岩波ジュニア新書
評価方法	発表 50%、定期試験に代わるレポート 50%で評価する。
自己学習に関する指針	発表箇所の決定後は、各自早めに調査に取り組んでください。
履修上の指導・留意点	「古典文学Ⅱ（歌謡と和歌）」の履修を前提として授業を行います。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校）での勤務経験に基づき、学生が国語科教員として必要な知識・技能を修得できる授業を行う。

授業科目	古典文学演習Ⅱ						
担当教員	山村桃子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	３・４（隔年開講）	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020580
免許資格関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	平安中期の長編物語『源氏物語』第一部及び第二部の読解演習を行う。自ら問題意識を持って古典作品を読むために、各巻を講読し、各自で問題点を設定し、辞書・注釈書・先行論文を用い、必要な用例を収集・分析する。その上で、自らの解釈を示す。本文は影印を用いて翻刻を行い、古文・くずし字の読解能力を身につける。また、『源氏物語』の享受の一形態として源氏香を体験する。
授業の到達目標	・息の長い古文を、古語・文法・文脈をふまえて解釈できるようになる。 ・基礎的なくずし字を読解できるようになる。 ・『源氏物語』の内容・人物・物語構造が説明できるようになる。
授業計画	第１回　ガイダンス　発表の方法 第２回　くずし字の読み方 第３回　準拠論・成立論 第４回　文化論 第５回　香道「源氏香」 第６回　演習①桐壺・帚木巻 第７回　演習②空蟬・夕顔巻 第８回　演習③若紫・末摘花巻 第９回　演習④紅葉賀・花宴巻 第 10 回　演習⑤葵・賢木・花散里巻 第 11 回　演習⑥須磨・明石巻 第 12 回　演習⑦少女・玉鬘巻 第 13 回　演習⑧野分・真木柱巻 第 14 回　演習⑨若菜上・若菜下巻 第 15 回　演習⑩柏木・横笛巻 定期試験
テキスト	紫式部・角川書店編『源氏物語　ビギナーズクラシックス日本の古典』角川ソフィア文庫
参考文献	秋山虔『源氏物語の世界』東京大学出版会　ほか
評価方法	発表 60%、定期試験 40%により評価する。
自己学習に関する指針	くずし字の翻刻を毎回の宿題とします。毎回の宿題をこなすことで、基本的なくずし字を読むことができるようになります。
履修上の指導・留意点	くずし字を読むためには、古文の読解能力が必要です。古典文法や古語の知識の確認をしておいてください。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校）での勤務経験に基づき、学生が国語科教員として必要な知識・技能を修得できる授業を行う。

授業科目	近代文学演習Ⅰ						
担当教員	岩田英作						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	３・４（隔年開講）	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020590
免許資格関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	近代文学の中で中学・高校の国語科教材として採用されたことのある作品を中心に取り上げ、学生による発表とその後のディスカッションを中心に進行する。作品の読解を深めることを主眼に置く。
授業の到達目標	①日本近代文学の作家・作品について専門的な知識を修得する。 ②小説を読む技法と解釈力を修得する。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　中学国語より　別役　実『空中ブランコ乗りのキキ』 第３回　中学国語より　宮沢賢治『オツベルと象』 第４回　中学国語より　太宰　治『走れメロス』 第５回　中学国語より　山川方夫『夏の葬列』 第６回　中学国語より　安岡章太郎『サーカスの馬』 第７回　中学国語より　阿部　昭『あこがれ』 第８回　高校国語より　志賀直哉『濠端の住まい』 第９回　高校国語より　吉行淳之介『童謡』 第 10 回　高校国語より　井伏鱒二『山椒魚』 第 11 回　高校国語より　石川　淳『アルプスの少女』 第 12 回　高校国語より　三島由紀夫『白鳥』 第 13 回　高校国語より　中島　敦『山月記』 第 14 回　高校国語より　山田詠美『ひよこの眼』 第 15 回　高校国語より　村上春樹『七番目の男』 定期試験
テキスト	プリントを利用する。
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	発表（50%）と期末の試験（50%）を総合して評価する。
自己学習に関する指針	取り上げる作品については講義に先立ってあらかじめ読んでおくこと。 取り上げる作家の他の作品についても積極的に読むことが望ましい。
履修上の指導・留意点	近代文学（小説）をより深く読みたい学生、国語の教員免許の取得を目指す学生には、本科目の履修を勧める。

授業科目	近代文学演習Ⅱ						
担当教員	山根繁樹						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	３・４（隔年開講）	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020600
免許資格関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	日本の戦後小説を題材に、自ら問題を発見しながら作品を読み解く方法と、その読解を説得的に他者に伝える力とを養うことを目標とする。言葉の連なりが生み出す意味作用に対する洞察力や、物語の構造を把握する分析力を磨く。また、それぞれの読解をもとに発表やディスカッションを行うことで、文学作品について自らの考えを的確に表現したり、他者の伝えようとしている内容を正確に把握したりする力を培う。それによって、文学に対する学生の主体的なかかわりを醸成する。
授業の到達目標	（１）小説を分析的に読解することができる。 （２）小説についての自分の見解を発表することができる。 （３）小説についての自分の見解を説得的な文章にすることができる。
授業計画	第１回　概説１　近代文学の分析方法 第２回　概説２　小説の構造と物語の関わり 第３回　概説３　現代社会と物語の強度 第４回　発表１　内田百閒「ゆうべの雲」 第５回　発表２　石川淳「アルプスの少女」 第６回　発表３　稲垣足穂「澄江堂河童談義」 第７回　発表４　小島信夫「馬」 第８回　発表５　安部公房「棒」 第９回　発表６　藤枝静男「一家団欒」 第 10 回　発表７　半村良「箪笥」 第 11 回　発表８　筒井康隆「遠い座敷」 第 12 回　発表９　渋澤龍彦「ダイダロス」 第 13 回　発表 10　高橋源一郎「連続テレビ小説ドラえもん」 第 14 回　発表 11　笙野頼子「虚空人魚」 第 15 回　発表 12　吉田知子「お供え」 定期試験
テキスト	講談社文芸文庫編『戦後短篇小説再発見 10　表現の冒険』（講談社）
参考文献	前田愛『文学テクスト入門』（ちくま学芸文庫）
評価方法	定期試験（６０％）発表内容および資料（２０％）レポート（２０％）
自己学習に関する指針	授業で扱う作品については、事前に必ず読んでおいてください。
履修上の指導・留意点	意見の違いは重要です。積極的にディスカッションに参加してください。 質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail で対応します。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校教諭）での勤務経験を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	日本文学特殊講義						
担当教員	大坪亮介						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020610
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	日本古典文学の一大ジャンルともいうべき軍記物語について、特に代表的な作品である『平家物語』と『太平記』を主たる対象としてテキストの読解を中心とした授業を行う。各作品の背景や多様な諸本の存在、さらには歴史との関わりといった事柄についても、隣接諸分野の知見を参照しつつ考察を加え、戦乱を活写した文学である軍記物語の特質を浮き彫りにしていく。
授業の 到達目標	・軍記物語のテキストを、その歴史的・文化的背景を視野に入れつつ理解する。 ・中世特有の表現や語法に親しみ、軍記物語についての基礎的な知識を身につける。
授業計画	第１回　『平家物語』の成立 第２回　『平家物語』の表現世界 第３回　『平家物語』の歴史観 第４回　『平家物語』の諸本生成 第５回　『愚管抄』の世界 第６回　『承久記』の世界 第７回　『太平記』の成立 第８回　『太平記』の表現世界 第９回　『太平記』の歴史観 第 10 回　『太平記』の諸本生成 第 11 回　軍記物語と宗教 第 12 回　軍記物語と芸能 第 13 回　『平家物語』と近代日本 第 14 回　『太平記』と近代日本 第 15 回　まとめ
テキスト	プリント配布。
参考文献	日下力『いくさ物語の世界』（岩波新書、2008 年）川合康編『平家物語を読む』（吉川弘文館、2008 年）市沢哲編『太平記を読む』（吉川弘文館、2008 年）大津雄一『『平家物語』の再誕』（NHK ブックス、2013 年）、兵藤裕己『太平記〈よみ〉の可能性』（講談社学術文庫、2005 年）
評価方法	期末レポートによる。
自己学習に 関する指針	授業後にはプリントの内容をよく整理し、分からなかった言葉などは各自調べておくこと。また、上記参考文献以外にも、関連する書籍を積極的に読破しようとする姿勢が望ましい。
履修上の 指導・留意点	教科書は用いず、プリントを配布する。古典テキストの読解がメインの授業であることをじゅうぶん理解した上で受講してほしい。

授業科目	文化人類学						
担当教員	塩谷もも						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M3020620
免許資格 関連事項							

授業の概要	文化研究の基礎を学び、異文化のとらえ方、フィールドワークの基礎を身に付ける。いくつかの身近なテーマを設定し、世界中の調査地から集められた多様な事例を比較しつつ、共通性と異質性を意識しながら、文化の特徴を理解していく。受講生は、各テーマについて異文化と比較しながら、日本や自分自身に重ね合わせた考察を行なう。また、グローバル化する世界を生きるなかで必要とされる、異文化を理解していくための知識と技能を身に付けることを目的とした講義を行なう。
授業の 到達目標	⑴文化を多角的にとらえられる視点が身に付く。 ⑵文化人類学の重要な調査方法であるフィールドワークの基礎が身に付き、自ら調査を行なえるようになる。 ⑶各テーマについて異文化と比較しながら、日本の身近な文化を考えられるようになる。 ⑷グローバル化する社会のなかで、異文化に対する関心を深め、正しく接するための知識が身に付く。
授業計画	第１回　文化人類学と文化の定義について 第２回　異文化との出会い：文化人類学の歴史 第３回　異文化のとらえかた：文化相対主義 第４回　フィールドワークとは 第５回　フィールドワークの技法を学ぶ 第６回　フィールドワークを活用する 第７回　家族と親族の多様性 第８回　家族と親族を考える 第９回　変化する家族と親族 第 10 回　コミュニティと社会 第 11 回　宗教と信仰 第 12 回　儀礼・呪術と社会 第 13 回　贈り物と社会 第 14 回　贈与と社会関係 第 15 回　現代の文化人類学
テキスト	なし（適宜プリントを配布）
参考文献	奥野克巳・花渕馨也 共編　『文化人類学のレッスン―フィールドからの出発』　学陽書房
評価方法	課題シート 30% 課題レポート 20% 試験 50%
自己学習に 関する指針	⑴関心を持ったテーマについて、授業で紹介する参考文献を参考にしながら、文献を読んで、知識を深める。 ⑵ それぞれのテーマについて、新聞記事やインターネットなどを通じて情報を収集し、それらをもとに自分で分析しながら考える。
履修上の 指導・留意点	授業では毎回課題シートの提出があるので、授業の内容をふまえて自らどう考えるか、また疑問点を見出すなど、主体的に考える姿勢で授業に参加すること。

授業科目	ジェンダーと文化						
担当教員	塩谷もも						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020630
免許資格関連事項							

授業の概要	宗教、家族、仕事を主なテーマとし、世界各地の事例を比較しながら、ジェンダーの視点から考えることを目標とする。それぞれのテーマに関連する問題、その背景と問題解決への取り組みについて、日本との比較をしながら、世界各地の事例に基づいた講義を行う。映像や新聞記事などを活用することで、受講者が将来像を含め、自分と重ね合わせた考察を行なうこと、自分の意見をしっかりと持ち、それを伝えられるようになることを到達目標とする。
授業の到達目標	⑴ 世界の多様な事例を見ることで、ジェンダーについて意識し、考えられるようになる。 ⑵ テーマで扱う問題の背景と取り組みをきちんと理解し、それに対して自分の意見を持てるようになる。 ⑶ 授業で扱う問題について、将来像を含め、自分と重ね合わせて考える視点が身に付く。
授業計画	第１回　ジェンダーとは何か 第２回　ジェンダー研究の背景 第３回　ジェンダーの多様性を考える 第４回　イスラム教のジェンダー観 第５回　ワークショップ１：意見交換 第６回　ワークショップ２：口頭発表とまとめ 第７回　ヒンドゥー教のジェンダー観 第８回　仏教のジェンダー観 第９回　多様な家族の姿とジェンダー 第 10 回　近代家族の成立と女性 第 11 回　制度から考えるジェンダー 第 12 回　仕事とジェンダー観 第 13 回　家事労働とジェンダー 第 14 回　育児に見るジェンダー観 第 15 回　新しい働き方への取り組みと全体のまとめ 定期試験
テキスト	テキストは特に定めず、プリントを配布します。
参考文献	田中雅一・中谷文美（編）2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社。 川島典子・西尾亜希子（編著）2012『アジアのなかのジェンダー：多様な現実をとらえ考える』世界思想社。
評価方法	課題シート 30%、課題 20%、試験 50%、
自己学習に関する指針	⑴新聞やニュースなどで取り上げられるジェンダー関係の記事などを参考に、現在の動きを知りながら、自ら考える。 ⑵授業内で紹介する参考文献を参考に、知識を深める。
履修上の指導・留意点	授業では毎回課題シートの提出があるので、授業の内容をふまえて自らどう考えるか、また疑問点を見出すなど、主体的に考える姿勢で授業に参加すること。

授業科目	多文化共生論						
担当教員	増原善之、塩谷もも						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020640
免許資格 関連事項							

授業の概要	アジアをはじめとする異文化への理解を深めながら、多様な文化を持つ人びとと地域で共生する方法を学び、受講生が自ら考察することを目標とする。多文化共生論、異文化理解に関する講義で基礎を学び、外部講師による文化講座で異文化への理解を深め、山陰で生活する異文化の人々との意見交換を実施する。これらを通じて、地域に住む多様な人々が良好な関係を築き、それを維持するために重要なことについて、主体的に考えを深めていく。
授業の 到達目標	⑴偏見や先入観にとらわれることなく、多文化共生社会の現状と課題を正しく理解する。 ⑵多文化共生の観点から、今後の日本社会のあり方について自分自身の考えを述べることができる。 ⑶多文化共生社会の一員として、地域社会への自らの関わりを見出し、実践できるようになる。
授業計画	第１回　多文化共生とは 第２回　異なる文化に触れた経験から 第３回　「日本人」の境界 第４回　日本の中での多様性を考える 第５回　日本の難民受け入れ 第６回　日本で働くということ 第７回　島根県内の定住外国人 第８回　多文化共生とこどもたち 第９回　日本の移民政策 第 10 回　宗教と食について考える 第 11 回　自然災害と外国人 第 12 回　ことばに関する活動：日本語教室とやさしい日本語 第 13 回　地域社会の取り組み 第 14 回　異文化交流活動を考える 第 15 回　まとめ～多文化共生社会に向けて～
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	高城玲（編著）2017『大学生のための異文化・国際理解：差異と多様性への誘い』丸善出版 加賀美常美代（編著）2013『多文化共生論：多様性理解のためのヒントとレッスン』明石書店
評価方法	ワークシート（30%）、口頭発表課題（20%）、レポート課題（50%）
自己学習に 関する指針	⑴ 文献、インターネット、ニュースや新聞報道等を通じて、日常的に多文化共生や異文化について関心を持ち、知識を深める。 ⑵ 異文化交流活動等へ積極的に参加し、多文化共生について考える。
履修上の 指導・留意点	授業時間外に、異文化交流活動等に参加をする可能性がある。

授業科目	アメリカ文化論						
担当教員	藤永康政						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020650
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・異文化理解 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・異文化理解						

授業の概要	本講義では、現代のアメリカ社会や文化に巨大な影響を与えている公民権運動の歴史を学ぶことを通じ、アメリカ史ならびにアメリカ文化に関する理解を深めることを目的とする。授業では、マーティン・ルーサー・キングとマルコムＸの生涯を主に取りあげる。彼ら二人はしばしば「黒人指導者」として対極に位置づけされているが、その実態は一般に思われているものと異なる。本授業では、戦後のアメリカ社会の変化のなかに彼ら二人の生涯を位置づけながら、このことを考察する。また、本講義での後半では、オバマ政権以後のアメリカで起きた変化を検討することを通じ、現在アメリカ社会に関するより深い知識と理解を得ることを目指す。
授業の 到達目標	・アメリカ現代史の実像について理解を深め、アメリカ像の再構築をすすめる。 ・アメリカ現代史分野における個別研究の実例を通じて、アメリカ研究の研究方法を学ぶ。 ・既存の知識を捉え直せるような柔軟な思考力を養う。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　今日のアメリカ社会・文化の基礎知識 第３回　植民地期から南北戦争 第４回　デュボイス・ワシントン論争 第５回　公民権運動概史(1)―20 世紀後半のアメリカ社会の変化 第６回　公民権運動概史(2)―長い公民権運動論と現代社会 第７回　モントゴメリー・バス・ボイコット運動の実像(1)-運動の概略 第８回　モントゴメリー・バス・ボイコット運動の実像(2)-公民権運動とジェンダー 第９回　『自由への大いなる歩み』を読む 第 10 回　ブラック・フェミニズムの視点 第 11 回　公民権運動の批判的検討 第 12 回　マルコムＸの生涯と都市黒人ゲトー(1)-北部都市黒人ゲトーの形成 第 13 回　マルコムＸの生涯と都市黒人ゲトー(2)-マルコムＸと公民権運動 第 14 回　今日のアメリカ社会・文化の発展知識(1)-公民権運動後のアメリカ 第 15 回　今日のアメリカ社会・文化の発展知識(2)-2016 年大統領選挙をどう見るか？
テキスト	上杉忍『アメリカ黒人の歴史』（中公新書） マーティン・ルーサー・キング『自由への大いなる歩み―非暴力で闘った黒人たち』（岩波新書、1959 年） マルコムＸ『完訳マルコムＸ自伝』（中公文庫、2002 年）
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	・期末レポートに基づき、総合的見地から評価する。 ・レポートでは、授業内容の理解度と同時に、論述文作成能力も判断基準とする。
自己学習に 関する指針	・上記テキストのうち、上杉忍『アメリカ黒人の歴史』（中公新書）は、授業前に一読することを強く奨めます。 ・ほかのテキストも、多くの図書館が所有しているものであり、レポート課題の必須文献とするので必ず読むこと。 ・授業で紹介した参考文献や資料は、復習とレポート作成に役立てること ・日頃からアメリカ発のニュースには強い関心を持つこと。授業のなかでも適宜触れることになります。

履修上の 指導・留意点	・集中講義につき、質問はメールで対応します。 ・３分の１以上の欠席があった場合、レポート提出を認めることはできません。

授業科目	イギリス文化論						
担当教員	吉中孝志						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020660
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・異文化理解 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・異文化理解						

授業の概要	英国初期近代のシェイクスピアとその前後の詩人たちが、如何に自分自身の名前や愛する人の名前を文学テクストの中に刻み込んだか、そしてその意義について考察することでイギリス文化の根幹にある特異性と普遍性を探求する。
授業の 到達目標	・文学テクストを解読することによって、テクストとしての文化を分析する能力を養成する。イギリス文化の根幹にある詩、韻文文学を精読し、心理学、哲学、思想史学、歴史学、言語理論等を援用して、イギリス文化の特異性と人文学の研究対象に内在する普遍性を考察する。
授業計画	第１回　導入　イギリス文化と名前、個人主義について 第２回　序論　現代西洋文化に内在する不安感―ジョン・レノンの「ジュリア」―。 第３～５回　さまざまな宮廷風恋愛の考察を通して現代の恋愛文化が発明された過程を探求する。 第３回　サー・フィリップ・シドニー 第４回　エドマンド・スペンサー　その１（三人のエリザベス） 第５回　エドマンド・スペンサー　その２（繰り返される名前） 第６～８回　初期資本主義が文学作品に与えた影響を分析することでイギリス文化の経済的側面を考察する。 第６回　ウィリアム・シェイクスピアの『ソネット集』 第７回　ウィリアム・シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』 第８回　ウィリアム・シェイクスピアのその他の作品 第９～10 回　宗教詩を分析することでイギリス宗教文化に内在する葛藤を考察する。 第９回　ジョン・ダンの人生と恋愛詩 第 10 回　ジョン・ダンの宗教詩 第 11 回　ベン・ジョンソンの詩を通してイギリス文化の死生観を探る。 第 12～13 回　イギリス文化における庭園 第 12 回　アンドリュー・マーヴェルの『庭』について 第 13 回　アンドリュー・マーヴェルの『庭を攻撃する草刈人』について 第 14～15 回　イギリス文化と聖書、キリスト教 第 14 回　ジョン・ミルトンの『失楽園』その１（名付けるという行為） 第 15 回　ジョン・ミルトンの『失楽園』その２（堕落と名前）
テキスト	『名前で読み解く英文学―シェイクスピアとその前後の詩人たち―』（広島大学出版会、平成 24 年）
参考文献	授業時に指示する。
評価方法	筆記試験もしくはレポートによる。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	異文化コミュニケーション論						
担当教員	浜田幸絵						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020665
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・異文化理解 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・異文化理解						

授業の概要	近年、人々は、かつてない規模で世界を移動し、異なる文化に触れています。また直接接触したことはなくても、一度も訪れたことのないような国やそこに生きる人々についての情報に、日常的に接しています。この授業では、異文化コミュニケーションをめぐる諸問題について考え、一つの物事を多面的にみる力を養います
授業の 到達目標	1. 異文化コミュニケーションに関する基礎的な理論・概念について理解する。 2. 文化の多様性や異文化交流のもつ様々な側面について、体験的に理解したうえで、多面的に考え、説明することができる。 3. 他の学生と協力しながら勉強や議論を進めることができる。
授業計画	第１回　イントロダクション 第２回　「文化」とは？ 第３回　「異文化」とは？（1）―文化の違いについて― 第４回　「異文化」とは？（2）　―対立と理解― 第５回　多様な文化的背景をもったゲスト講師との交流(1)―自分の文化を意識する― 第６回　多様な文化的背景をもったゲスト講師との交流(2)―他者の文化を知る― 第７回　文化の多様性と異文化交流―考えをまとめよう― 第８回　異文化に出会うとき(1)―ステレオタイプについて― 第９回　異文化に出会うとき(2)―オリエンタリズム、オキシデンタリズム― 第 10 回　異文化交流と国際イベント(1)―オリンピックと万国博覧会― 第 11 回　異文化交流と国際イベント（2）―考えをまとめよう― 第 12 回　言語とコミュニケーション（1）―「コミュニケーション」とは?― 第 13 回　言語とコミュニケーション（2）―非言語コミュニケーションについて― 第 14 回　言語とコミュニケーション（3）―考えをまとめよう― 第 15 回　まとめ
テキスト	指定はしません。レジュメを配布します。
参考文献	青木保『異文化理解』（岩波書店、2001 年） 池田理知子編『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010 年） 河合優子編『交錯する多文化社会』（ナカニシヤ出版、2016 年）
評価方法	学期末レポート（６０%）、小課題（４０%）
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	ヨーロッパ文化論Ⅰ（フランス）						
担当教員	金山富美						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020670
免許資格 関連事項							

授業の概要	世界の政治経済の基盤を成し、日本人の生活習慣や娯楽にも大きな影響を与えてきたヨーロッパについて、その牽引車であるフランスに的を絞り、様々な分野における「フランス的なもの」を読み解くことを目標とする。歴史・思想・文学・芸術の基礎知識はもとより、社会制度や生活習慣など具体例も交えて紹介し、受講生がフランスの多様性と異質性に目を開き、その鏡に照らして日本文化を再発見できるように講義を進める。
授業の 到達目標	（１）フランスの人々の生活・習慣、その基盤にある文化や精神について、基礎的知識を獲得する。 （２）異なる文化の「表情」に触れ、そこにステレオタイプではない新しいものの見方を発見できる。 （３）フランスと自国の文化、国民性等に差異や共通点について考え、それを説明することができる。
授業計画	第１回　イントロダクション　フランスの地理・風土、日本語になったフランス語・フランス語になった日本語 第２回　歴史と文化概観（１）ガリア～中世～ルネサンス 第３回　歴史と文化概観（２）17 世紀～19 世紀前半 第４回　歴史と文化概観（３）19 世紀後半～現在 第５回　日仏の文化交流 第６回　前回までのまとめの小テスト、フランス語の綴り字の読み方 第７回　フランス語のプロフィール（１）フランス語の生成 第８回　フランス語のプロフィール（２）フランス語と英語の切っても切れない関係 第９回　フランス文学とそこに表現されるもの（１）童話・寓話 第 10 回　フランス文学とそこに表現されるもの（２）近代小説 第 11 回　フランス文学とそこに表現されるもの（３）現代の文学 第 12 回　モードの世界 第 13 回　飲食の文化 第 14 回　ライフスタイル：政治・家族制度など 第 15 回　教育制度に関する日仏比較 定期試験
テキスト	プリントを配布する
参考文献	講義の中で紹介する
評価方法	毎回のレスポンス・シート（30%）、第６回目に行う小テスト（20%）、定期試験（50%）
自己学習に 関する指針	・配布資料を十分に理解し、必ず復習を行うこと。
履修上の 指導・留意点	・毎回、講義終了の前に、短いレポート（レスポンス・シート）を課す。 ・なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、食文化の教育・専門機関での勤務経験があり、フランスの食・料理文化の研究やフランス語通訳・翻訳業務等の経験を生かして、受講生の関心と気付きを促す、より具体的な授業を展開する。

授業科目	ヨーロッパ文化論Ⅱ（ドイツ）						
担当教員	上野敬子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020680
免許資格 関連事項							

授業の概要	ドイツの生活事情に触れ、知識を得ることを通して、ドイツ語・ドイツ文化に対する興味を深め、さらに自らの文化との比較を通して、それぞれの文化の魅力を学ぶことを目標とする。授業では、ドイツの住まいや週末・休暇の過ごし方、ドイツの学校制度・大学生活、家庭での食事、スポーツ、環境問題など、生活の中の身近なテーマを取り上げて考察し、私たちの生活との違いについて話し合い、さらに、なぜ文化の違いが成り立っているのかを考えてみる。
授業の 到達目標	ドイツ文化・ドイツ語の知識を習得するとともに、異文化理解に際しての精神的態度・認識を身につけます。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　ドイツの都市と自然 第３回　ドイツの住まい 第４回　交通事情 第５回　週末・休暇の過ごし方 第６回　学校制度と大学生活 第７回　カフェ・レストラン 第８回　家庭での食事 第９回　ビールとワイン 第 10 回　祝祭日とお祭り 第 11 回　スポーツ 第 12 回　芸術 第 13 回　文学 第 14 回　環境問題 第 15 回　生活習慣　―　日本との違い 以上のテーマで講義をする予定ですが，参加する学生の皆さんの興味により，新たなテーマを加えることもあります。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	適宜指示いたします
評価方法	定期試験（筆記：50%）と，出席・発表(又はレポート)による受講評価(平常点：50%)を総計して，総合的に評価します。
自己学習に 関する指針	問題意識を持った主体的な取り組みを期待しています
履修上の 指導・留意点	初回の授業は，出席・試験・などの方針について説明しますので，必ず出席してください

授業科目	アジア文化論Ⅰ（東南アジア）						
担当教員	塩谷もも						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020690
免許資格関連事項							

授業の概要	東南アジアを中心に、アジアの社会、文化に関する知識の基礎を身に付けることを目標とする。「自然環境」「宗教」「食」「住」「言語」「民族衣装」などをテーマにとりあげた講義を行なう。グローバル化が進行する中で、事例に基づいてアジア諸国と日本のつながりの現状についても考察していく。身に付けた知識に基づいて、自分とは異なる文化、宗教、価値観を持つ人びとと接する際に何が重要かを考える想像力、多角的な視点で物事を捉える力を修得する。
授業の到達目標	⑴ 東南アジアの社会・文化的な特徴と基礎知識を身につけることができる。 ⑵ 自分と異なる文化、信仰、価値観を持つ人と共存について、主体的に考えられるようになる。 ⑶ 各国の事例を比較することで、多様性と共通性について知り、その視点を生かしながら、日本の社会・文化についても広い視野から考えられるようになる。
授業計画	第１回　アジアとは 第２回　自然環境と生業 第３回　国民国家の成立と民族集団 第４回　植民地からの独立と言語 第５回　多民族国家での言語 第６回　衣服とアイデンティティ 第７回　衣服と宗教 第８回　居住空間と社会関係 第９回　家と人々のつながり 第 10 回　宗教の重層性 第 11 回　混交する信仰体系 第 12 回　食から考える宗教 第 13 回　グローバル社会の中での食 第 14 回　ハラールビジネス 第 15 回　東南アジアと日本のつながり
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	上智大学アジア文化研究所（編）『新版入門東南アジア研究』めこん。 東京外国語大学東南アジア課程（編）『東南アジアを知るための 50 章』明石書店。
評価方法	課題シート 30%、レポート課題 20%、試験 50%
自己学習に関する指針	⑴関心を持ったテーマ、国について、授業で紹介する参考文献を参考にしながら、文献を読んで、知識を深める。 ⑵ それぞれのテーマについて、新聞記事やインターネットなどを通じて情報を収集し、それらをもとに自分で分析しながら考える。
履修上の指導・留意点	授業では毎回課題シートの提出があるので、授業の内容をふまえて自らどう考えるか、また疑問点を見出すなど、主体的に考える姿勢で授業に参加すること。

授業科目	アジア文化論Ⅱ（東アジア）						
担当教員	内藤忠和						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020700
免許資格 関連事項							

授業の概要	東アジアを中心に、アジアの社会、文化に関する知識を習得し、異文化に対する理解を深め、自分とは異なる言語、文化、価値観を持つ人々と接する際に必要なことがらを体得することを目標とする。「文化」「言語」「文学」「社会」「交流」などをテーマとし、映像資料なども活用しながら講義を進める。東アジア諸国と日本との文化的、社会的関係性についても考察し、相互の影響関係や共通点・相違点について理解を深める。
授業の 到達目標	１．東アジアの社会、文化に関する知識を得る。 ２．異文化理解を深める。 ３．日本と東アジア諸国との影響関係及び相互の共通点・相違点について考察し、理解を深める。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　文化①　東アジアの宗教と倫理概説 第３回　文化②　中国語圏映画の世界 第４回　文化③　流行音楽から見る中国語圏の現代文化 第５回　言語①　新語・流行語から見る文化交流 第６回　言語②　中国語と英語は本当に似ている？ 第７回　言語③　「国語」と「普通話」と「華語」 第８回　文学①　中国古典入門 第９回　文学②　中国古典小説の世界 第 10 回　文学③　中国語圏現代文学アラカルト 第 11 回　社会①　中国社会の恋愛・結婚 第 12 回　社会②　「反日」の歴史と現実 第 13 回　交流①　20 世紀前半の「近代」受容 第 14 回　交流②　増田渉と魯迅 第 15 回　まとめ
テキスト	適宜配布します。
参考文献	適宜周知します。
評価方法	課題提出（30%）及び学期末レポート（70%）
自己学習に 関する指針	受講生には一定時間調査・考察が必要な課題を出して授業時間外の学習を義務付けます。
履修上の 指導・留意点	3 分の 1 以上無断欠席した場合は「不可」となります、注意してください。

授業科目	アジアの歴史（東南アジア）						
担当教員	増原善之						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	コース必修	単位数	2	授業コード	M3020710
免許資格関連事項							

授業の概要	日本と東南アジアは歴史的に密接な関係を築いてきたにもかかわらず、私たち日本人の同地域に対する知識はとても限られている。本科目では東南アジアの通史を「広く浅く」学ぶのではなく、東南アジア社会の転換点となった重要なトピックを取り上げ、その歴史的意義を深く掘り下げていく。また、近現代においては日本との関係に重点を置き、グローバル化が進む世界において、東南アジアの人びととどのような関係を築いていくべきか、受講者とともに議論したい。
授業の到達目標	(1)高校の世界史ではほとんど扱われなかった東南アジア史の基礎的知識を学ぶことができる。 (2)私たちの目に映る現代東南アジアの社会や文化がどのようにして生み出されたのか、その歴史的背景について理解を深めることができる。 (3)日本と東南アジアとの関係史を学ぶことで、今後、どのように東南アジアと向き合っていくべきか、自分なりの考えを持つことができる。
授業計画	第１回　ガイダンス～東南アジアを知っていますか～ 第２回　民族・言語・基層文化 第３回　東南アジアの古典国家 第４回　上座仏教の世界 第５回　交易の時代～世界の交易センターとしての東南アジア～ 第６回　東南アジアの植民地化 第７回　タイと日本～植民地にならなかった国の近代化～ 第８回　ナショナリズムと共産主義の台頭 第９回　アジア太平洋戦争と東南アジア～日本占領下にいた人びとの視点から～ 第10回　独立と国民統合 第11回　ベトナム戦争 第12回　日本が「難民」と出会ったとき 第13回　開発独裁・社会主義・民主化 第14回　アセアンの理想と現実 第15回　まとめ～これからの日本と東南アジア～
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	コメントシート(40%)および学期末試験(60%)に基づいて総合的に評価する。
自己学習に関する指針	授業内容をより良く理解するために、授業中に紹介した参考文献やDVDなどを積極的に活用して知識を深めてほしい。
履修上の指導・留意点	「アジア文化研修」への参加を考えている学生は、本科目を履修することが望ましい。

授業科目	アジア文化研修計画						
担当教員	増原善之						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	２・３（隔年開講）	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3020720
免許資格関連事項							

授業の概要	「アジア文化研修」の履修予定者を対象とし、同研修の事前学習および準備を行うことを目的とする。おもな内容は（1）ラオスを理解するために欠かすことのできない基礎知識を学ぶこと、(2）他の受講者と協力して、ホームステイ先で実施する文化交流活動・スポーツ交流活動等（以下「交流活動」）を企画し、その実現に向けて準備（練習）を行うこと、(3）ラオスの人びとと最低限の意思疎通をはかれるよう、初歩的なラオス語を学ぶことの３点である。
授業の到達目標	⑴ラオスに関する基礎知識を体系的に学ぶとともに、東南アジアの社会について理解を深めることができる。 ⑵他の受講者と協力して「交流活動」の準備を行うことにより、企画力に加え協調性・積極性を伸ばすことができる。 ⑶挨拶、数の数え方、身の回りにある物の名前など初歩的なラオス語が身につく。
授業計画	第１回　「アジア文化研修」の概要説明・今後の計画作成 第２回　ホームステイ先で実施する「交流活動」の内容・役割分担についての打ち合わせ 第３回　ラオスの基礎知識①（安全対策・保健衛生状況） 第４回　ラオスの基礎知識②（民族） 第５回　ラオスの基礎知識③（宗教） 第６回　ラオスの基礎知識④（文化） 第７回　ラオスの基礎知識⑤（歴史） 第８回　ラオスの基礎知識⑥（政治） 第９回　ラオスの基礎知識⑦（経済） 第10回　ラオスの基礎知識⑧（社会） 第11回　ラオスの基礎知識⑨（日本との関係） 第12回　ラオスの基礎知識⑩（経済援助およびNGO・NPOの活動） 第13回　ラオスの基礎知識⑪（諸外国との関係） 第14回　ラオスの基礎知識⑫（村の暮らし、エチケット） 第15回　渡航前最終確認 上記の事前学習と並行して、ラオス語の学習および「交流活動」の準備（練習）を行う。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	事前学習（40%）、交流活動の準備（40%）、ラオス語学習（20%）を総合的に評価する。
自己学習に関する指針	・授業時間だけでラオス語を覚えることはできないので、復習を怠らないように。 ・「アジア文化研修」はお仕着せの見学旅行ではなく、参加者全員で作り上げていくものであることを自覚し、事前学習および準備の段階から積極的・主体的に取り組んでほしい。
履修上の指導・留意点	・本科目を履修する者は「アジア文化研修」も必ず履修すること（いずれか１科目のみの履修は認められない）。

授業科目	アジア文化研修						
担当教員	増原善之						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	２・３（隔年開講）	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020730
免許資格関連事項							

授業の概要	「アジア文化研修計画」の既履修者を対象とし、東南アジアのラオスを訪れて人々の暮らしや文化に触れ、異文化を理論としてではなく、現地での体験を通して理解することを目的とする。農村でのホームステイに重点を置き、村人と生活を共にしながら、文化交流活動等を通して相互理解を試みる。さらに世界遺産ルアンパバーンにおいて博物館・仏教寺院等の見学や各種体験学習を通して、現地の人びとの暮らしや文化の多様性・奥深さについて理解を深める。
授業の到達目標	⑴ふだんなじみのない文化事象、宗教実践、生活様式なども、その社会的・歴史的背景を知れば、それらを受け入れることに大きな困難はないことを体験を通して理解する。 ⑵言葉や文化の違いを乗り越え、現地の人びとと意思疎通を図るなかで、異文化理解に不可欠な心構えとスキルを身につける。 ⑶海外へ視野を広げることで、新たな研究課題を発見し、学習意欲の一層の向上につなげることができる。
授業計画	・研修期間は、日本との往復を含めて 10 日間、そのうちラオス滞在は 7 泊 8 日となる予定である。ラオスにおける研修内容の概要は以下の通り。 ⑴農村でのホームステイ 　農村の暮らしを体験（農作業・家事手伝い）、文化交流活動、子供たちとのスポーツ交流など ⑵ルアンパバーン市内見学および各種体験学習 　国立博物館・仏教寺院・織物村見学、托鉢体験、象乗り体験、メコン川クルージングなど ⑶ビエンチャン（首都）市内見学 ・帰国後、研修内容およびその成果をまとめたレポートを作成し、報告会を開いて総括を行う。
テキスト	「アジア文化研修計画」において配布したプリントを適宜活用する。
参考文献	「アジア文化研修計画」において紹介した文献を適宜活用する。
評価方法	研修への取り組み（70%）および帰国後のレポート作成・報告会（30%）に基づいて総合的に評価する。
自己学習に関する指針	・本研修はお仕着せの見学旅行ではなく、参加者全員で作り上げていくものであることを自覚し、現地での諸活動に積極的・主体的に取り組んでほしい。
履修上の指導・留意点	・本科目を履修する者は「アジア文化研修計画」も必ず履修すること（いずれか 1 科目のみの履修は認められない）。 ・スケジュール・参加費用等の詳細が決まり次第、説明会を開いて参加者の公募を行う予定である。 ・本研修の参加人数は最大 15 名とする。応募者が多い場合は人数制限を行う。 ・旅費を含む参加費用は、参加者の個人負担とする。 ・本研修は海外情勢および受け入れ国の保健衛生状態等の理由でやむをえず中止になることがある。

授業科目	国際文化特殊講義						
担当教員	鹿野一厚						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020740
免許資格 関連事項							

授業の概要	海外の諸文化について学外の研究者によって集中講義形式で行い、学内の専任教員とはまた違った観点からの講義を通して、海外の文化について視野を広げ、理解を深めることを目標とする。海外の文化や歴史に係わる研究内容について、より多くの学生が興味を持てるようにわかりやすく講義する。集中講義で学生の集中力が途切れないように、学生のワークショップやプレゼンテーションを取り入れ、双方向のコミュニケーションを図りながら授業を進行する。 令和３年度は、対象としてアフリカ地域を取り上げる。日本から遠く離れたアフリカとそこに住む人びとについて理解するために、最新のアフリカ研究の知見を紹介しながら、文化だけでなく自然環境、歴史、社会についても広く解説してゆく予定である。
授業の 到達目標	①アフリカの文化や自然・歴史・社会などに関する基礎的な知識を習得する。 ②アフリカの多様性と過去、そして困難と希望について理解し、それらから何かを学ぶことができる。 ③アフリカから学んだ様々なことを自己の言葉で説明することができる。
授業計画	（講義 20 時間、演習 10 時間） 第１回　アフリカの多様性　国家と民族、生態環境と生業(1) 第２回　アフリカの多様性　生態環境と生業(2) 第３回　アフリカの多様性　演習 第４回　アフリカの過去　人類の誕生から古王国まで 第５回　アフリカの過去　奴隷交易、植民地支配 第６回　アフリカの過去　植民地支配、そして独立 第７回　アフリカの過去　演習 第８回　アフリカの困難　政治的動乱と紛争(1) 第９回　アフリカの困難　政治的動乱と紛争(2) 第 10 回　アフリカの困難　演習 第 11 回　アフリカの希望　経済の激動、紛争処理(1) 第 12 回　アフリカの希望　紛争処理(2) 第 13 回　アフリカの希望　演習 第 14 回　アフリカの希望　演習 第 15 回　おわりに 定期試験
テキスト	テキストはとくに使用しないが、毎回レジュメと資料を配付する。
参考文献	『アフリカ社会を学ぶ人のために』 松田素二編 2014 年 世界思想社 『新書アフリカ史　改訂新版』 宮本正興・松田素二著 2018 年 講談社現代新書 その他、授業中に随時紹介する。
評価方法	成績は、授業で課す小レポート（50%）、期末試験（50%）によって総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	＊授業には熱心に取り組むことはもちろんであるが、特に、授業で課す小レポートには真摯に取り組むこと。
履修上の 指導・留意点	

授業科目	英語学概論Ⅰ						
担当教員	マユーあき						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	コース必修	単位数	2	授業コード	M3020750
免許資格関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学						

授業の概要	英語がどのようなしくみを持ち、どのような規則によって成立しているのか、またどのようにして運用されているのかを、音声・音韻・形態・統語・意味・語用の面から概観し、言語を分析的に捉える視点を学修し、英語への理解を深める。
授業の到達目標	・現代英語のしくみや英語を背後で支えている規則について、英語学の基本的知識を身に付けている。 ・言語を分析的に捉える視点を身に付けている。
授業計画	第１回　イントロダクション、英語の始まり 第２回　英語の歴史(1)古期英語、中期英語 第３回　英語の歴史 (2) 近代英語、英語の歴史的変遷のまとめ 第４回　形態論(1)語のしくみ 第５回　形態論(2)語形成 第６回　統語論(1)生成文法 第７回　統語論(2)機能的構文論：文の情報構造 第８回　統語論(3)機能的構文論：視点 第９回　意味論(1)語彙意味論：語の意味、意味関係、多義性 第 10 回　意味論(2)語彙意味論：名詞の意味、動詞の意味 第 11 回　意味論(3)認知意味論：カテゴリー化とプロトタイプ、メトニミー 第 12 回　意味論(4)認知意味論：抽象概念とメタファー、事態の解釈 第 13 回　語用論(1)発話のしくみ 第 14 回　語用論(2)談話のしくみ 第 15 回　振り返りとまとめ 定期試験
テキスト	影山太郎/ブレント・デ・シェン/日比谷潤子/ドナ・タツキ First Steps in English Linguistics. 2nd ed. （くろしお出版）
参考文献	長谷川瑞穂 編著『はじめての英語学』改訂版（研究社）
評価方法	平常点 20 点、課題レポート 20 点、定期試験 60 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に関する指針	事前にテキストを読み、理解できたことと、よくわからなかったことを明確にしておいてください。
履修上の指導・留意点	質問は、内容に応じて、授業中・研究室・e-mail のいずれかで対応します。

授業科目	英語学概論Ⅱ						
担当教員	田中芳文						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	コース必修	単位数	2	授業コード	M3020760
免許資格関連事項	〇中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学 〇高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学						

授業の概要	言語学と英語学について書かれたテキストを読みながらその内容を理解するとともに、関連する資料や用例をもとに英語とその関連分野について考察する。
授業の到達目標	英語学の諸分野と関連諸科学の知見を概観し、英語の言語を多角的な視点から深く分析的に理解するための能力を身に付ける。言語の本質、談話分析、言語と脳、言語習得と言語学習、ジェスチャーと手話、書き言葉、言語の変種・差異、言語と文化、国際共通語としての英語、対照言語学、応用言語学をテーマとして取り上げる。
授業計画	第１回　イントロダクション 第２回　言語の起源 第３回　動物の言語と人間の言語 第４回　語形成 第５回　談話分析 第６回　言語と脳 第７回　第１言語習得 第８回　第２言語習得と言語学習 第９回　ジェスチャーと手話 第 10 回　書き言葉としての英語 第 11 回　言語の地域別変種・差異 第 12 回　言語の社会的変種・差異 第 13 回　言語と文化 第 14 回　対照言語学：英語と日本語の対照研究 第 15 回　応用言語学：英語学と英語教育学との関連 定期試験
テキスト	影山太郎ほか『英語言語学の第一歩』第 2 版（くろしお出版）
参考文献	寺澤芳雄（編）『英語学要語辞典』研究社. 荒木一雄（編）『英語学用語辞典』三省堂.
評価方法	平常点 20 点、課題レポート 20 点、定期試験 60 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	英語学演習Ⅰ						
担当教員	小原真子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020770
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学						

授業の概要	ことばの使い方には人間の認知の仕方が深く関わっている。Wear と「着る」のように，英語と日本語の対応する語でも，意味の範囲が違うということはよくあるが，この授業では，英語や日本語のことばの意味の違いと認知の仕方が関わる様々な現象を学ぶ。特に，ことばの意味と典型例（プロトタイプ）との関わりや，比喩（メタファー，メトニミー）と多義性との関連を中心的に扱う。また，授業内容に関連する課題について調査し，発表することで理解を深める。
授業の 到達目標	・ことばの意味と認知のしかたが関わる現象を理解できる。 ・日本語や英語の意味に関わる現象を分析できる。 ・分析した結果をわかりやすくまとめられる。
授業計画	第１回　はじめに　世界の立ち現れ方 第２回　プロトタイプ 第３回　抽象化とスキーマ　発表１ 第４回　意味のネットワーク 第５回　メタファー 第６回　メトニミー　発表２ 第７回　概念メタファー 第８回　方向性のメタファー 第９回　「色」とことば　発表３ 第 10 回　意味変化 第 11 回　多義語 第 12 回　語から文へ　発表４ 第 13 回　構文と意味 第 14 回　日英対照研究 第 15 回　文法化　発表５ 期末レポート
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	『ファンダメンタル認知言語学』野村益寛著　ひつじ書房 『学びのエクササイズ　認知言語学』谷口一美著　ひつじ書房
評価方法	授業中のリアクションペーパー30%，発表 20%，レポート 50%で評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	英語学演習Ⅱ						
担当教員	田中芳文						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020780
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学						

授業の概要	社会言語学が扱う領域について書かれたテキストを読みながらその内容を理解するとともに、英米の小説、新聞・雑誌などの用例をもとに、英米の辞書やその他の資料を使用しながら、英語とその背景文化について具体的に考察する。
授業の 到達目標	英語の言語とその背景文化を多角的な視点から深く分析的に理解するための能力を身に付ける。社会言語学の視点から、英語の方言と標準語、アフリカ系アメリカ英語、言語使用域、スラング、タブー語、ジェンダー、英語の言語変化を、言語と文化に関する視点から、広告の英語、漫画の英語、日英語比較、ブランド名、犯罪・捜査の英語、医療語表現をテーマとして取り上げる。
授業計画	第１回　イントロダクション 第２回　社会言語学：英語の方言 第３回　社会言語学：英語の標準語 第４回　社会言語学：アフリカ系アメリカ英語、ラテンアメリカ系英語など 第５回　社会言語学：英語の言語使用域 第６回　社会言語学：英語のスラングとジャーゴン 第７回　社会言語学：英語のタブー語と婉曲語法 第８回　社会言語学：言語とジェンダー 第９回　社会言語学：英語の統語変化・形態変化 第 10 回　社会言語学：英語の語彙変化・意味変化 第 11 回　言語と文化に関する事例研究・広告の英語、漫画の英語 第 12 回　言語と文化に関する事例研究・日英語比較と誤訳 第 13 回　言語と文化に関する事例研究・英語のブランド名と背景文化 第 14 回　言語と文化に関する事例研究・犯罪・捜査の英語表現と背景文化 第 15 回　言語と文化に関する事例研究・英語の医療語表現と背景文化 定期試験
テキスト	成田　一『ことばのエッセンス』（三修社 ）
参考文献	岩田祐子・重光由加・村田泰美,『概説　社会言語学』ひつじ書房. 東　照二,『社会言語学入門　生きた言葉のおもしろさに迫る』研究社.
評価方法	平常点 20 点、課題レポート 40 点、定期試験 40 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の 指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	英語音声学						
担当教員	竹中裕貴						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020790
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学						

授業の概要	英語音声学の知識を習得し，その実践を通して英語の発音指導などに生かせるようになることを目標とする。以下の授業計画に沿って，現代英語の言語音について，その基本的な特性を理解していく。また，授業中の発音練習や定期的な小テスト，そして中間・期末試験を通して，獲得した知識の定着をはかる。
授業の 到達目標	・現代英語の発音の広がりについて幅広く理解する ・音声器官や言語音について基本的な知識を獲得する ・英語の母音ならびに子音について，その特性を理解する ・音節・アクセント・イントネーションなど，各レベルにおける規則を学習する
授業計画	第１回　授業解説・現代英語の発音 第２回　音声器官と音の分類・母音の分類 第３回　母音（1）　強母音・弱母音／短母音 第４回　母音（2）　長母音／二重母音／三重母音 第５回　母音（3）　弱母音／半母音 第６回　子音の分類・子音（1）　閉鎖音／摩擦音 第７回　子音（2）　破擦音／鼻音 第８回　子音（3）　側面音／半母音 第９回　前半授業まとめ ＆ まとめテスト 第 10 回　音の連続（1）　子音の結合 第 11 回　音の連続（2）　脱落・同化 第 12 回　アクセント 第 13 回　イントネーション 第 14 回　音素 第 15 回　綴り字と発音 期末試験
テキスト	竹林滋・斉藤弘子（2014），『新装版　英語音声学入門』第 9 刷．大修館．
参考文献	授業中に適宜紹介，配布する。
評価方法	授業参加・・・10 点（ディスカッションなどへの参加，授業に参加するのみでは得点獲得はなし） 小テスト・・・20 点（授業の各セクションごとに小テストを行う） 中間試験・・・35 点（前半の授業内容について試験を行う） 期末試験・・・35 点（後半の授業内容について試験を行う） 以上，100 点満点で，60 点以上を合格とする。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、松江総合医療専門学校において、言語聴覚士を目指す学生を対象とし、英語との対比を行いながら日本語の言語学的な特徴を様々な観点から解き明かす授業を担当した。当然、音声学・音韻論的な内容も含まれており、この経験は英語音声学において授業用資料や授業展開をより分かりやすくするために生かされている。

授業科目	英文法Ⅰ						
担当教員	マユーあき						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020800
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学						

授業の概要	これまでの英語学習で蓄積された文法知識を体系的に整理しながらさらに英語学的に深め、ことばの運用を背後で支える文法についての知識を確かなものにすることを目標とする。授業では、例文が示す様々な言語現象に対して「なぜ」を問い、その背後にある英語の意味上・統語上の規則性を探って考察し、文法分析の基本的な考え方や視点を身に付ける。文法項目を前篇と後編に分けてそれぞれを「英文法Ⅰ」と「英文法Ⅱ」で扱うので、全体を網羅するためにも、Ⅰ、Ⅱともに履修することが望ましい。
授業の 到達目標	・英語を適確に運用するための文法知識を習得する。 ・英語の言語現象について、意味論・統語論のそれぞれの視点から分析し、整合性のある説明を行うことができる。
授業計画	第１回　イントロダクション 第２回　文の構造 第３回　文の種類 第４回　動詞 第５回　時制 第６回　相 第７回　法 第８回　否定 第９回　受動文 第 10 回　名詞 第 11 回　冠詞 第 12 回　名詞句と文構造の多様性 第 13 回　形容詞 第 14 回　副詞 第 15 回　授業の振り返りとまとめ 定期試験
テキスト	瀬田幸人著『ファンダメンタル英文法』（ひつじ書房）
参考文献	Hands, P. (ed.), Collins COBUILD English Grammar. 3rd ed. HarperCollins. 安藤貞雄,『現代英文法講義』開拓社.
評価方法	平常点 20 点、課題レポート 20 点、定期試験 60 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	事前に、テキストの指定ページを必ず読んできてください。
履修上の 指導・留意点	質問は、内容に応じて、授業中・研究室・e-mail のいずれかで対応します。

授業科目	英文法Ⅱ						
担当教員	田中芳文						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020810
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学						

授業の概要	テキストから助動詞、準動詞、接続詞、前置詞、関係詞、文、話法、特殊構文、情報構造、談話文法、コロケーションについて書かれた部分を読んで正確に理解するとともに、関連する資料や用例をもとに、英文法について分析的に考察する。
授業の 到達目標	英文法の各項目について正確に理解し、説明できる力をつける。助動詞、準動詞（不定詞、分詞、動名詞）接続詞、前置詞、関係詞（関係代名詞、関係副詞）、文（疑問文、命令文）、話法（直接話法、間接話法）、特殊構文（倒置、強調、省略）、情報構造（旧情報と新情報）、談話文法、コロケーションをテーマとして取り上げる。
授業計画	第１回　イントロダクション 第２回　助動詞 第３回　不定詞 第４回　分詞 第５回　動名詞 第６回　接続詞 第７回　前置詞 第８回　関係詞 第９回　疑問文 第 10 回　命令文 第 11 回　直接話法と間接話法 第 12 回　倒置・強調・省略 第 13 回　情報構造 第 14 回　談話文法 第 15 回　英語のコロケーション 定期試験
テキスト	瀬田幸人『ファンダメンタル英文法』（ひつじ書房）
参考文献	Hands, P. (ed.), Collins COBUILD English Grammar. 3rd ed. HarperCollins. 安藤貞雄,『現代英文法講義』開拓社.
評価方法	平常点 20 点、課題レポート 20 点、定期試験 60 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の 指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	英語学特殊講義						
担当教員	小原真子						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020820
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学						

授業の概要	英語の代表的な構文を取り上げて，英語の意味と文法の諸問題を概観する。前半は，ほぼ同じ意味内容を表すのに，違う形の文が使われる交替現象について概観する。能動文と受動文の交替，二重目的語構文と与格構文の交替など，中学や高校の英語の授業でも学んだことのある，なじみの深い交替現象について，２種類の違う文型にどのような違いがあるのか，またその関係について深く学ぶ。また，後半は英語と日本語で違いの見られる結果構文などを取り上げ，構文研究を通じて英語・日本語それぞれの特徴について考察する。
授業の 到達目標	・英語の代表的な構文の特徴を理解している。 ・構文研究を通じて，英語・日本語それぞれの特徴を理解している。
授業計画	第１回　はじめに　動詞と文の要素 第２回　２種類の自動詞（１）：スル動詞とナル動詞 第３回　２種類の自動詞（２）：主語の位置とその証拠 第４回　能動文と受動文の交替（１）：受動化のプロセス 第５回　能動文と受動文の交替（２）：受動化できない他動詞 第６回　場所句交替（１）：場所句交替の条件 第７回　場所句交替（２）：２種類の構文と情報構造 第８回　二重目的語構文（１）：二重目的語の条件 第９回　二重目的語構文（２）：二重目的語と与格構文の意味の違い 第 10 回　移動と経路の表現（１）：移動の要素と表現 第 11 回　移動と経路の表現（２）：日本語と英語の移動表現 第 12 回　結果構文（１）：結果構文の条件 第 13 回　結果構文（２）：日本語と英語の結果構文 第 14 回　中間構文（１）：中間構文の特徴 第 15 回　中間構文（２）：中間構文の主語と動詞の条件 定期試験
テキスト	『ファンダメンタル英語学演習』中島平三著　ひつじ書房 その他，必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	『日英対照　動詞の意味と構文』影山太郎編　大修館書店特
評価方法	授業中の課題 40%，定期試験 60%で評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	英語コミュニケーション実践演習Ⅰ（中級）						
担当教員	Dixon Heather Marie						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020830
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション						

授業の概要	スピーキングとリスニングを中心とする授業。様々なテーマについて自分の考えや経験などを英語で表現できるように幅広いトピックに渡って、少人数のグループでスピーキングの練習を行う。
授業の 到達目標	・受講生がネイティブレベルの英語になれること、そして様々なテーマに関して英語で自分の考えや経験について話すことを目的とする。
授業計画	第１回　Four Corners 4 Unit 1 A, B, C 第２回　Four Corners 4 Unit 2 A, B, C 第３回　Four Corners 4 Unit 3 A, B, C 第４回　Four Corners 4 Unit 4 A, B, C 第５回　Four Corners 4 Unit 5 A, B, C 第６回　Four Corners 4 Unit 6 A, B, C 第７回　Four Corners 4 Unit 7 A, B, C 第８回　Four Corners 4 Unit 8 A, B, C 第９回　Four Corners 4 Unit 9 A, B, C 第10回　Four Corners 4 Unit 10 A, B, C 第11回　Four Corners 4 Unit 11 A, B, C 第12回　Four Corners 4 Unit 12 A, B, C 第13回　Review Units 1-4 第14回　Review Units 5-8 第15回　Review Units 9-12 定期試験
テキスト	Four Corners 4 (Cambridge University Press)
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組む姿勢（30点）、ペアワーク・グループワーク（20点）、定期試験（50点）
自己学習に 関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の 指導・留意点	質問は、授業時間中で対応します。履修希望者が20名を超える場合、人数を制限することがあります。

授業科目	英語コミュニケーション実践演習Ⅱ（上級）						
担当教員	Lieske Carmella						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020840
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション						

授業の概要	実世界のトピックを使用しながら、英語の特にリスニングとスピーキングスキルを洗練し、異なる文化や言語の人々と円滑にコミュニケーションできる能力を身に付けることを目標とする。例えば、一人で海外旅行する場面における日常会話、会議における挨拶や議題の進め方、学びの場でのディスカッションの場面や家庭におけるパーティーでのやりとりなど、様々な場面を設定し、効率的かつ正確に、さらには多少のユーモアも交えながら情報を伝達するための英語力や態度を身に付ける。
授業の 到達目標	・自分の意見を英語で説明したり、違う意見に同意するか丁寧に反論すること。 ・情報が的確かを見極めること。 ・会話の基本構造を理解すること。 ・自分の意見に根拠を提示すること。
授業計画	第１回　Orientation オリエンテーション 第２回　Understanding others’ attitudes toward English 他者のふるまいを理解する 第３回　Understanding others’ feelings about English communication 他者の気持ちを理解する 第４回　Talking about travel, going to another country 旅行や外国に行くことについて話そう 第５回　Talking about transportation around the world 世界中の交通手段について話そう 第６回　Designing the perfect resort 理想的なリゾートを計画する 第７回　Telling the world about your hometown (poster) 自分の出身地を紹介する（ポスター） 第８回　Bright lights, big cities まばゆい光、大都市 第９回　Overcoming health problems 健康の問題を解決する 第10回　Role play ロールプレイ 第11回　Going beyond the obvious: Communicating more deeply about hobbies and daily life 趣味や日常生活についてさらに深くコミュニケーションをとる 第12回　Having the time of my life! 素晴らしい時間を過ごすこと 第13回　Overcoming problems with critical thinking and communicative English 批判的な考えや英語でのコミュニケーションについての問題解決 第14回　Using technology for communication コミュニケーションのためにテクノロジーを使う 第15回　Telling the world about Japanese culture (PSA) 日本文化について話そう 定期試験　Final discussion test 最終ディスカッションテスト
テキスト	Globe Trotters, ISBN 978-1-285-19750-0 By Carmella Lieske

	National Geographic Learning/Cengage
参考文献	You will need to gather data from the Internet. Handouts will be given in class. インターネットでデータ収集の必要あり。プリントの配布あり。
評価方法	Public Service Announcement 20 points 連絡伝達に関する課題 Discussion test 20 points ディスカッションテスト Role play 15 points ロールプレイ
自己学習に関する指針	１回の授業ごとに課題を出すので、毎回復習を兼ねて提出してもらう。
履修上の指導・留意点	メールアドレスは最初の授業に配る。欠席する場合、できるかぎり事前に連絡をすること。 Have experience working in Japanese elementary, junior high, and senior high schools and has conducted teacher workshops for teachers in Japan, the United States and Asia. Will use that experience to teach classes that help students better understand and use intercultural communication 本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、日本の小、中、高校での勤務経験、また、日本を始め、アメリカやアジアでの先生のワークショップをリードする勤務経験もあり、その経験を生かして,より異文化理解や異文化コミュニケーションを利用する授業を展開する。

授業科目	パラグラフ・ライティング						
担当教員	松浦雄二						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020850
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション						

授業の概要	topic sentence, supporting sentences, concluding sentence の３要素からなるパラグラフの論理構成について、モデル文の分析を通して各要素における適切な書き方を理解する。それを踏まえ、実際にパラグラフ・ライティングの演習を行ない、topic sentence で示された１つの idea に統一され、かつ、各文が意味的なつながりを持って１つのまとまりをなす、統一性と結束性のある英文が書けるようにする。
授業の 到達目標	英語によるエッセイ・ライティングの基礎として、説明文型パラグラフの書き方を習得することを目標とする。
授業計画	第１回　イントロダクション―英語の文章構成における paragraph の機能的位置づけと、paragraph を成立させる３つの要素 第２回　モデル文の分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その１～topic sentence の導入、英文構成のための文法事項とともに 第３回　モデル文の分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その２～topic sentence のからの展開～supporting sentences、文法、punctuation 第４回　モデル文の分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その３～topic sentence からの展開、パラグラフ内の統一性・一貫性、concluding sentence 第５回　paragraph 展開パタンの整理と課題英作文演習ならびに English confirmation 第６回　展開パタン別モデル文分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その１～手順型 第７回　展開パタン別モデル文分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その２～積み重ね型 第８回　展開パタン別モデル文分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その３～釣り合い型 第９回　内容別モデル文分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その１～マニュアル、レシピ型 第 10 回　内容別モデル文分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その２～議論提起型 第 11 回　内容別モデル文分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その３～情景描写型 第 12 回　内容別モデル文分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その４～物語型 第 13 回　応用１～課題演習ならびに English confirmation　展開パタンで書いてみる 第 14 回　応用２～課題演習ならびに English confirmation　マニュアル・レシピ型、議論提起型で書いてみる 第 15 回　応用３～課題演習ならびに English confirmation　情景描写型、物語型で書いてみる レポート提出
テキスト	主にプリントを使用する予定であるが、授業時に詳しく指示する。
参考文献	授業時に適宜紹介する。
評価方法	毎回の課題／授業参加度（授業時のコメントシートの提出等）75%・期末試験（レポート）25%の比率で、合計 100 点で評価する。

自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	エッセイ・ライティング						
担当教員	ラング・クリス						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020860
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション						

授業の概要	パラグラフ・ライティングの授業で説明文型パラグラフの書き方を習得したことを踏まえて、エッセイ・ライティングに必要な文章構成の技法を学び、英文構成法に則ってエッセイが書けるようになることを目標とする。模範となるエッセイやパラグラフを読み、英語での文章の書き方を学び、英文で客観的事実や自分の考えを正確に伝える能力を養う。語彙力の増強、文法面での補強なども行うことで、総合的に英語力を向上させる。
授業の 到達目標	エッセイ・ライティングに必要な文章構成の技法を学び、英文構成法に則ってエッセイが書くことができるようになる。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　Unit 1　日記・フリーライティング・作文形式 第３回　Unit 2　クラスメートのことを書こう 第４回　作文の訂正例と解説 第５回　Unit 3 外国人ゲストのインタビューとレポート 第６回　Unit 4 個人の経験について書こう 第７回　Unit 6 比較 第８回　Unit 7 物語を書こう 第９回　Unit 8 ｅメールの書き方 第10回　Unit 9　招待文と道案内 第11回　Unit 10　レストランのレビュー 第12回　Unit 11　ビジネスレターと礼状の書き方 第13回　Unit 12　自分の意見を述べる 第14回　ポートフォリオ 第15回　まとめ
テキスト	Write Away, Right Away 2e David Martin, EFL Press
参考文献	なし
評価方法	授業への取り組む姿勢・・・30点 ジャーナルライティング・・・20点 課題・・・50点
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校）での勤務経験を生かして、より具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	英語プレゼンテーション演習Ⅰ（基礎）						
担当教員	ラング・クリス						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020870
免許資格関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション						

授業の概要	プレゼンテーションを通して、「リスニング」「リーディング」「スピーキング」「ライティング」の英語４技能を総合的に向上させることを目標とする。同時に、英語を使って口頭で説明し、相手を説得するプレゼンテーション能力を向上させることを目指す。授業では、各自が決めたテーマについて情報収集して原稿を書き、パワーポイントを使ってスピーチを発表する。テーマは具体的には、世界や社会問題などに関するものとする。プレゼンテーションの準備段階では、個人指導の時間をとり、スピーチ内容の添削や発音などの指導を行うことで、英語４技能を修得する。
授業の到達目標	英語を使って口頭で説明し、相手を説得するプレゼンテーション能力を身に付けることができる。
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　スピーチ１（紹介と説明の仕方）に向けてその１～　姿勢とアイコンタクトについて 第３回　スピーチ１（紹介と説明の仕方）に向けてその２～出身地についてプレゼンテーションしよう 第４回　スピーチ２（紹介と説明の仕方）に向けてその１～効果的なジェスチャーの使い方 第５回　スピーチ２（紹介と説明の仕方）に向けてその２～お気に入りの場所をプレゼンテーションしよう 第６回　スピーチ３（手順説明の仕方）に向けてその１～声の効果的な使い方 第７回　スピーチ３（手順説明の仕方）に向けてその２～やり方・手順のプレゼンテーション 第８回　スピーチ４（データ説明と比較の仕方）に向けてその１～パワーポイントについて 第９回　スピーチ４（データ説明と比較の仕方）に向けてその２～データやグラフの効果的な示し方 第10回　スピーチ４（データ説明と比較の仕方）に向けてその３～比較のプレゼンテーション 第11回　スピーチ５（意見説明と説得の仕方）に向けてその１～イントロダクション 第12回　スピーチ５（意見説明と説得の仕方）に向けてその２～本文と接続の仕方 第13回　スピーチ５（意見説明と説得の仕方）に向けてその３～まとめの仕方 第14回　スピーチ５（意見説明と説得の仕方）に向けてその４～ファイナルスピーチの準備１ 第15回　スピーチ５（意見説明と説得の仕方）に向けてその５～ファイナルスピーチの準備２
テキスト	SPEAKING OF SPEECH マクミラン・ランゲージハウス デービッド・ハリントン（著），チャールズ・ルボー（著）
参考文献	なし
評価方法	授業への取り組む姿勢・・・40点 発表の評価・・・60点
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等学校）での勤務経験を生かして、より具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	英語プレゼンテーション演習Ⅱ（発展）						
担当教員	Lieske Carmella						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020880
免許資格 関連事項	〇中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション 〇高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション						

授業の概要	パワーポイントやポスター発表など、様々な媒体を用いたプレゼンテーションの種類、作成と発表方法を学び、それらを利用しながら英語によってプレゼンテーションする技術を身に付けることを目標とする。効果的なプレゼンテーションやコミュニケーション方法は国や文化によって異なる。これらの違いを分析することを通して明らかにし、様々な背景から来ている人々に向けて説得力のあるプレゼンテーションをする力を養う。
授業の 到達目標	・様々なプレゼンテーションの種類や発表法を理解すること。 ・発表の目的によって適切な表現を選ぶこと。 ・効果的な発表とは何かを分析すること。 ・単独またはペアまたはグループでのプレゼンテーションをできるようになること。
授業計画	第１回　Orientation　　オリエンテーション 第２回　Example of impromptu presentation　　即興のプレゼンテーションの例 第３回　One impromptu presentation, explaining content (Amazing Animals) so everyone Understands １つの即興のプレゼンテーション、内容の説明（素晴らしい動物）、皆の理解のために 第４回　Two impromptu presentations, showing content that doesn’t distract (Bionics) ２つの即興のプレゼンテーション、発表の内容を損なわないやり方（生物工学） 第５回　Pair presentations　　ペアでのプレゼンテーション 第６回　Two impromptu presentations, presentations to convince (Earth’s Beginning) ２つの即興のプレゼンテーション、納得させるプレゼンテーション（地球の始まり） 第７回　Two impromptu presentations, presentations to convey information (Deep Sea Vents) ２つの即興のプレゼンテーション、情報を伝えるためのプレゼンテーション（海底の谷） 第８回　Two impromptu presentations, presentations to instruct (Culture and Hadza) ２つの即興のプレゼンテーション、教えるためのプレゼンテーション（文化とハザ民族） 第９回　Group presentations　　グループでのプレゼンテーション 第10回　Two impromptu presentations, presentations to tell stories (Survival) ２つの即興のプレゼンテーション、話をするためのプレゼンテーション（生存） 第11回　Two impromptu presentations, presentations to solve problems (Disappearing Languages) ２つの即興のプレゼンテーション、問題解決のプレゼンテーション（消えゆく言語） 第12回　Two impromptu presentations, presentations to report progress (Writing around the World) ２つの即興のプレゼンテーション、進行状況報告のプレゼンテーション（世界中で書く） 第13回　Poster presentations　　ポスタープレゼンテーション 第14回　Two impromptu presentations, not just PowerPoint ２つの即興のプレゼンテーション、パワーポイントだけではない 第15回　Two impromptu presentations, presentations to sell (Why Do People Read?) ２つの即興のプレゼンテーション、販売のプレゼンテーション（なぜ人は読むのか？） 定期試験　Final PowerPoint presentation 最終パワーポイントプレゼンテーション
テキスト	Reading Adventures 3 ISBN 978-0-8400-3039-9 By Carmella Lieske and Scott Menking National Geographic / Cengage Learning

参考文献	You will need to gather data from the Internet. Handouts will be given in class. インターネットでデータ収集の必要あり。プリントの配布あり。
評価方法	Impromptu presentation about country/culture (from homework material) 10 points 国や文化に関する即席のプレゼンテーション（課題で準備した内容から） Final PowerPoint Presentation （定期試験） 20 points 最終パワーポイントプレゼンテーション Pair presentation
自己学習に関する指針	１回の授業ごとに課題を出すので、毎回復習を兼ねて提出してもらう。
履修上の指導・留意点	メールアドレスは最初の授業に配る。欠席する場合、できるかぎり事前に連絡をすること。 Have experience working in Japanese elementary, junior high, and senior high schools and has conducted teacher workshops for teachers in Japan, the United States and Asia. Will use that experience to teach classes that help students better understand and use intercultural communication 本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、日本の小、中、高校での勤務経験、また、日本を始め、アメリカやアジアでの先生のワークショップをリードする勤務経験もあり、その経験を生かして，より異文化理解や異文化コミュニケーションを利用する授業を展開する。

授業科目	メディア英語Ⅰ(基礎)						
担当教員	田中芳文						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020890
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション						

授業の概要	現代人が直面する健康問題を中心にした英文ニュース記事を中心に読みながら、英語読解と概要把握、ディクテーション、重要表現・構文を使った英作文、語彙力の確認などを行う。
授業の 到達目標	メディアの英語の文法、語法、構成上の特徴を理解し、要点を押さえながら英文ニュース記事を読む力を身に付ける。環境・日常生活・政治・経済・医療・言語・文化・科学技術・教育・労働・世界の諸地域などのテーマを題材として取り上げる。
授業計画	第１回　イントロダクション：メディア英語の特徴 第２回　環境 第３回　日常生活 第４回　政治・経済 第５回　医療 第６回　言語 第７回　文化 第８回　科学技術 第９回　教育 第 10 回　労働 第 11 回　世界の諸地域・アメリカ 第 12 回　世界の諸地域・ヨーロッパ 第 13 回　世界の諸地域・アジアとオセアニア 第 14 回　世界の諸地域・中東 第 15 回　世界の諸地域・アフリカ 定期試験
テキスト	田中芳文編著『やさしい英語ニュースで学ぶ　現代社会と健康』(講談社) その他の配布教材
参考文献	特になし
評価方法	平常点 30 点と定期試験 70 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の 指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	メディア英語Ⅱ（発展）						
担当教員	マユーあき						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020900
免許資格 関連事項	〇中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション 〇高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション						

授業の概要	日本を含めた世界の今日的話題を扱った記事を読むことを通して、「英語を読む」から「英語で読む」への転換を図り、英語での情報収集能力を養うことを目標とする。授業では、英語の新聞、雑誌など活字メディアの記事を扱い、要点を押さえながらある程度の速度で読み通す力を養う。また、様ざまな語彙や英語表現を学び、それらを活用して記事の要約やコメントを英語でまとめるタスクを行う。このことを通して、英語の発信力と、世界情勢や現代を生きる私たちが直面している諸課題を自分に引きつけて考えようとする姿勢を培う。
授業の 到達目標	・世界情勢と人類が直面している重要課題について基本的知識を身に付けている。 ・英文記事をある程度の速度で要点を押さえながら読むことができる。 ・記事を要約したり、内容についての自分のコメントを英語でまとめることができる。
授業計画	第１回　イントロダクション 第２回　地域紛争と世界 第３回　移民と帰属意識 第４回　イスラムと女性 第５回　語られはじめたジェンダー 第６回　最新の記事を読む ①：アメリカ・ヨーロッパ 第７回　銃と社会 第８回　仮想現実と社会 第９回　ネット環境と情報社会 第 10 回　現代日本の家族 第 11 回　最新の記事を読む ②：アジア・オセアニア 第 12 回　環境保護 第 13 回　農業政策と食糧問題 第 14 回　グローバル市場と労働問題 第 15 回　最新の記事を読む ③:中東・アフリカ 定期試験
テキスト	Bruce Allen 他 編注『Different Perspectives—Understanding Current World Issues』（金星堂）
参考文献	授業で適宜紹介する。
評価方法	小テスト 20 点、授業参加度 20 点、課題レポート 20 点、期末試験 40 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	事前にテキストを必ず読んできてください。
履修上の 指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業中・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	メディア英語リスニング						
担当教員	マユーあき						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020910
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション						

授業の概要	ＣＮＮが伝える世界各地からのレポートを聞くことにより、グローバル時代の様ざまな英語（Englishes）を体験しながら英語の運用能力を高めるとともに、時々刻々と変化する世界情勢を英語音声から把握できる力を養う。授業では、ＣＮＮが伝えるストーリーについて部分的聴き取りや内容把握問題に取り組むことに加え、パラレル・リーディングやシャドーイングを行い、メディア英語のスピードへの対応力を養う。また、重要語彙や表現についても学び、英語運用能力を総合的に向上させる。
授業の 到達目標	・グローバル言語として、世界で様々な英語が話されている現実を認識し、そのことを尊重する態度を身に付けている。 ・世界情勢についてのストーリーを聞いて、大体の筋を把握することができる。 ・メディア英語の重要語彙や表現について知識を習得し、活用できる。
授業計画	第１回　イントロダクション：ＣＮＮニュース英語の特徴 第２回　ＣＮＮで話される様ざまな英語（Englishes）の特徴と音声変化について 第３回　Unit 1　One-way Adventure 第４回　Unit 2　Finding a New Calling 第５回　Unit 3　Scary Vulnerability 第６回　Unit 4　3-D Shoes for Man’s Best Friend 第７回　Unit 5　The Branding of a Tissue 第８回　Unit 6　Don’t Mess with Charlotte 第９回　Unit 7　Slightly Off Balance 第10回　Unit 8　Way Off Balance 第11回　Unit 9　Alarming Scenario 第12回　Unit 10　Bittersweet Reunion 第13回　Unit 11　Seeking Rapport 第14回　Unit 12　Friendship in the Pipeline 第15回　授業のまとめと振り返り 定期試験
テキスト	関西大学英語教育研究会編著『ＣＮＮ：ビデオで見る世界のニュース（17)』(朝日出版)
参考文献	なし
評価方法	課題20点、小テスト（語彙と表現）30点、期末試験50点の合計100点で総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	授業で行ったトレーニングを、できるだけ毎日、短時間でよいので継続して取り組んでください。
履修上の 指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業中・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	アメリカ語学研修計画						
担当教員	ダスティン・キッド						
科目分類	専門科目	授業時間	15	配当年次	１・２	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1030010
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション						

授業の概要	社会と経済のグローバル化に伴って、日本の国際社会でのプレゼンスと産業競争力を向上させるために、グローバルな舞台で活躍できる人材の育成が望まれている。英語が国際共通語となっている現代では、「英語コミュニケーション能力」が「グローバル人材」に必要な能力の一つであることに異論はないだろう。しかし、それだけでは異文化が交差する国際社会で活躍できる人材とはいえない。様々な文化をもった人々と効果的にコミュニケーションする「異文化コミュニケーション能力」と、どんな環境においても臨機応変に対応できる「問題解決能力」も同時に求められている。 本講座はアメリカのセントラル・ワシントン大学の附属英語センターで提供される有料夏期英語プログラム（「アメリカ語学研修」）に参加するための参加必須の事前準備８コマ分である。
授業の 到達目標	１）多様な文化的背景を持つ人々とコミュニケーションすることができる。（コミュニケーション能力） ２）異文化環境で起こる様々な問題を解決することができる。（批判的思考力・表現力） ３）一般的な英語運用能力が向上する。（会話能力）
授業計画	講座前の事前準備８コマ分 Saturdays in July 9:00 to 12:30 7/3 Session 1: Orientation and technology (Zoom, Canvas, etc.) 7/3 Session 2: Introductions and team building 7/3 Session 3: Preparation for online courses (1) 7/10 Session 4: Listening skills with a focus on online course content 7/10 Session 5: Preparation for online courses (2) 7/10 Session 6: Speaking skills with a focus on online course content 7/17 Session 7: Preparation for online courses (3) 7/17 Session 8: Reading skills with a focus on online course content 7/17Session 9: Preparation for online courses (4) 7/24 Session 10: Conflict resolution and collaboration in diverse groups 7/24 Session 11: Preparation for online courses (5) 7/24 Session 12: Presentation skills
テキスト	なし
参考文献	別途プリント配布
評価方法	以下により、総合的に評価する。 事前学習：60% 最後のプレゼンテーション：40%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	4 月にオリエンテーションを行う。 履修定員：30 名 ※人数が超過する場合は、TOEIC 試験による選抜を行う。 本授業は浜田キャンパスの Kane 先生と共同で開催して行う。 質問がある場合は研究室（2 号館 3 階）に来るか、メール（k-dustin@u-shimane.ac.jp）で問い合わせてください。 この授業の単位取得条件は次の 3 つに参加すること：①すべての事前準備授業、②最後のプレゼンテーション、③「アメリカ語学研修」。 本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（ALT、中学校・高等学校教諭）での勤務

	経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	アメリカ語学研修						
担当教員	ダスティン・キッド						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	１・２	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1030020
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション						

授業の概要	社会と経済のグローバル化に伴って、日本の国際社会でのプレゼンスと産業競争力を向上させるために、グローバルな舞台で活躍できる人材の育成が望まれている。英語が国際共通語となっている現代では、「英語コミュニケーション能力」が「グローバル人材」に必要な能力の一つであることに異論はないだろう。しかし、それだけでは異文化が交差する国際社会で活躍できる人材とはいえない。様々な文化をもった人々と効果的にコミュニケーションする「異文化コミュニケーション能力」と、どんな環境においても臨機応変に対応できる「問題解決能力」も同時に求められている。 　本講座はアメリカのセントラル・ワシントン大学の附属英語センターで提供される有料夏期英語プログラムに参加し、様々な国からの参加者との交流・英語学習を通じて、英語運用能力・異文化コミュニケーション能力・問題解決能力を向上させることを目的としている。以下の能力が身に付くであろう。本講座前の事前準備８コマ分に参加必須。
授業の 到達目標	１）多様な文化的背景を持つ人々とコミュニケーションすることができる。（コミュニケーション能力） ２）異文化環境で起こる様々な問題を解決することができる。（批判的思考力・表現力） ３）一般的な英語運用能力が向上する。（会話能力）
授業計画	8 月からアメリカのセントラル・ワシントン大学の附属英語センターで提供される夏期英語プログラム（有料オンライン授業 20 時間、自学習２０時間） 例の内容（変更可能） Week 1: Nature & The Earth Mon. Review Week 1 Module/ Oral communication info./tips: opinions, agreeing, disagreeing…/Prepare Self-Introduction mini-presentation/Read syllabus/Review Week 1 documents in Canvas Tues. Video homework intro./Oral communication tips/Prepare Self-Introduction mini-presentation/ Video/Qs: marine debris Wed. Self-Introduction mini-pres./ PPT presentation info./ Video discussion/ Video/Qs: Greta Thunberg’s message Thurs. Canvas Discussions info./ Video discussion/ Video: endangered species, complete posts Fri. Video discussion/ Video/Qs: cultural norms/customs (part 1)/ Do Canvas Quiz: Unit 1/ Week 2 Culture & Traditions Mon. Review Week 2 Module/ Oral communication info./tips Video discussion/ Video/Qs: cultural norms/customs (part 2)/ Tues. Video discussion/ Presentation(s)/ Video/Qs: small talk/ Wed. Video discussion/ Presentation(s)/ Video/Qs: American worker characteristics/ Thurs. Video discussion Video: Amer. business style, complete posts/ Fri. Video discussion/Video/Qs: 10 traditional American foods/ Do Canvas Quiz: Unit 2/ Week 3 Food & Health Homework Mon. Review Week 3 Module/ Oral communication info./ tips Video discussion/ Video/Qs: 10 food trends,

	100 years of fitness/ Tues. Video discussion/ Presentation(s)/Video/Qs: why eating healthy is expensive/ Wed. Video discussion/ Presentation(s)/ Video/Qs: mental health during a pandemic/ Thurs. Video discussion/ Explain Extra Credit/Video: mental health care, complete posts / **Extra Credit: “Alfred & Shadow” story** Fri. Video discussion/ Video/Qs: different kinds of families/ Do Canvas Quiz: Unit 3/ Week 4 Relationships Mon. Review Week 4 Module/ Oral communication info./tips Video discussion/Video/Qs: making American friends/ Tues. Mar Video discussion/Presentation(s)/Video/Qs: “Best Friend” animation film/ Wed. Video discussion/Presentation(s)/Video/Qs: shopping differences – men & women Thurs. Video discussion/Video: dating differences between Japan and the U.S., complete posts Fri. Video discussion/Do Canvas Quiz: Unit 4/ Final Exam 9月学内報告会
テキスト	なし
参考文献	別途プリント配布
評価方法	以下により、総合的に評価する。 プログラムの学習状況（積極性、学習態度など）：60%、 レポート（報告会）：40%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	4月にオリエンテーションを行う。 履修定員：30名 ※人数が超過する場合は、TOEIC試験による選抜を行う。 質問がある場合は研究室（2号館3階）に来るか、メール（k-dustin@u-shimane.ac.jp）で問い合わせてください。 この授業の単位取得条件をするには「アメリカ語学研修計画」に参加すること。 本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（ALT、中学校・高等学校教諭）での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	イギリス文学史						
担当教員	松浦雄二						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	コース必修	単位数	2	授業コード	M3020920
免許資格関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英米文学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英米文学						

授業の概要	英国の歴史・社会・文化の動向の中で、英国における叙事詩、抒情詩、劇、散文、小説などのジャンルが、どの時代にどのように興り、発展していったか、その中で作品はどのように生まれ、文学史的にどのように位置づけられていくのか、具体的にいくつかの作品を取り上げ鑑賞しながら考察していく。
授業の到達目標	・英文学における主要な詩・演劇・散文・小説の作品ならびに作者、また言語・形式について、基礎的な特色を知る。 ・英国における詩・演劇・散文・小説の成立と発展について、歴史の流れとともに整理できる。
授業計画	第１回　イントロダクション―「英語」の成立と歴史の中の文学 第２回　古英語・中英語の文学 第３回　ルネッサンスの詩と散文 第４回　イギリス・ルネッサンスの演劇 第５回　シェイクスピア 第６回　清教徒革命までの文学 第７回　王政復古期の文学 第８回　18 世紀の詩と散文 第９回　小説の誕生 第 10 回　ロマン主義時代の文学 第 11 回　ヴィクトリア時代の詩と散文 第 12 回　ヴィクトリア時代の小説 第 13 回　第２次大戦までの詩と演劇 第 14 回　第２次大戦までの小説 第 15 回　戦後のイギリス文学 定期試験
テキスト	『よくわかるイギリスの文学』清宮倫子・清宮協子編著　南雲堂　本体価格 2000 円※ ※価格は変更される場合があります。
参考文献	川崎寿彦『イギリス文学入門』研究社ほか、適宜授業で紹介する。
評価方法	期末試験(筆記試験もしくはレポート)、授業参加度（毎回のコメント・シート、小テストの成績、授業中の質問を勘案）の点数化により、合計 100 点満点で評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	アメリカ文学史						
担当教員	渡部知美						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	コース必修	単位数	2	授業コード	不要
免許資格関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語文学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語文学						

授業の概要	現代に語り継がれる文学作品は、優れた英語表現の宝庫であり、人の心に強く訴える魅力を持っている。授業では、アメリカ文学の主要作品から抜粋した原文を読みながら、英語の力を伸ばすとともに、文学作品の鑑賞力を身に付ける。
授業の到達目標	アメリカ文学史の流れをたどりながら、各時代における代表的な作家や作品に触れ、それぞれの特質や時代背景を理解し、知識を深めることを目的とする。
授業計画	第１回　イントロ 第２回　植民地時代の詩 第３回　大覚醒時代の説教 第４回　「独立宣言書」 第５回　フランクリン自伝 第６回　ロマン主義の詩と散文Ⅰ（主として詩について） 第７回　ロマン主義の詩と散文Ⅱ（主として散文について） 第８回　中間まとめ 第９回　エドガー・アラン・ポーⅠ（小説） 第10回　エドガー・アラン・ポーⅡ（詩論） 第11回　19世紀前半のアメリカと文学 第12回　ヘンリー・デイヴィッド・ソロー 第13回　19世紀後半のアメリカと文学 第14回　ナサニエル・ホーソーンの短篇 第15回　アメリカンユーモア、リアリズム、地方色文学 定期試験
テキスト	『講義　アメリカ文学史』渡辺 利雄　研究社
参考文献	The Art of Fiction, David Lodge　英宝社
評価方法	担当者は作品からの引用部分の全訳を提出及び質疑応答　３０点。期末試験　７０点。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	イギリスの文学と文化Ⅰ						
担当教員	松浦雄二						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020940
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英米文学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英米文学						

授業の概要	イギリス文学史で通時的に概観した英文学作品のジャンルのうち、詩または劇を取り上げ、英詩や英国劇の鑑賞力を高めることを通して、英語文化を理解していくことを目標とする。授業ではこのジャンルの代表的な作品を取り上げて読み、英詩や英国の劇が生まれた歴史、英詩に用いられている技法が詩の表現において持つ効果など、英詩や英国の劇に関する基本的な知識を身に付けながら、作品を原書で味わい、英語と英語文化への理解を深める。
授業の 到達目標	・詩、劇の台本としてのシェイクスピア作品の読み方を知ることを通して、詩劇または「聴く芝居」としてのイギリス・ルネッサンス演劇のあり方を理解し、鑑賞できる。 ・詩劇を鑑賞するのに必要な、英詩の詩形に関する知識を習得する。
授業計画	テキストを参照しながら、指定箇所の英語を丹念に予習すること。 第１回　「聴く芝居」に関するイントロダクション 第２回　台詞における詩の形式と効果 第３回　『リア王』１幕、２幕を読む１　主人公の提示 第４回　『リア王』１幕、２幕を読む２　娘たち 第５回　『リア王』１幕、２幕を読む３　廷臣たち 第６回　『リア王』１幕、２幕を読む４　道化 第７回　『リア王』３幕を読む１　怒りから狂気へ 第８回　『リア王』３幕を読む２　狂気の展開と自己への気づきの兆候 第９回　『リア王』３幕を読む３　「怒り」から知る自己評価と他者評価 第 10 回　『リア王』４、５幕を読む１　グロスターと変装したエドガー 第 11 回　『リア王』４、５幕を読む２　エドガーの「悟り」 第 12 回　『リア王』４、５幕を読む３　愛する者への言葉 第 13 回　『リア王』４、５幕を読む４　コーディリアの「何もない」の意味 第 14 回　『リア王』４、５幕を読む５　「感じたことを語る」とは 第 15 回　全体の読みのまとめ 定期試験
テキスト	授業時に指定する。
参考文献	松岡和子訳『リア王』ちくま文庫、河合祥一郎『シェイクスピア―人生劇場の達人』など
評価方法	期末試験（レポート）、授業参加度（毎回のコメント・シート、授業中の質問）の点数化により、合計 100 点満点で評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	イギリスの文学と文化Ⅱ						
担当教員	松浦雄二						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020950
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英米文学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英米文学						

授業の概要	散文・小説ジャンルの中から、代表的な作品を取り上げて読み、特に近代英国の市民社会における散文や小説がどのような形態で興り発展していったかなど、英国の散文・小説の基本的な知識を身に付けながら、作品を原書で味わい、英語と英語文化への理解を深める。
授業の 到達目標	イギリス文学史で通時的に概観した英文学作品のジャンルのうち、主として散文・小説を取り上げ、作品の鑑賞力を高めることを通して、英語文化を理解していくことを目標とする。
授業計画	第１回　イントロダクション～イギリスにおける散文・小説について 第２回　フランシス・ベーコンについて紹介、第３～５回の授業では、作者が「人間が最もとらわれて来た」感情と呼ぶ事柄に関わる章を読み、作者の捉え方について考察する 第３回　フランシス・ベーコン『随筆集』から「真実について」講読（予習必須、演習含む） 第４回　フランシス・ベーコン『随筆集』から「妬みについて」講読（予習必須、演習含む） 第５回　フランシス・ベーコン『随筆集』から「愛について」講読（予習必須、演習含む） 第６回　サミュエル・リチャードソンについて紹介、第７～９回の授業で書簡体小説を読み、読者心理の操作技術に焦点を当てる 第７回　リチャードソン『パミラ』より手紙その１を講読（予習必須、演習含む） 第８回　リチャードソン『パミラ』より手紙その２を講読（予習必須、演習含む） 第９回　リチャードソン『パミラ』より手紙その３、４、５を講読（予習必須、演習含む） 第 10 回　ジェーン・オースティンについて紹介、第 11～15 回の授業で、特に話法に焦点を当てる、またこの作品における登場人物の描かれ方とリチャードソンのそれを比較する 第 11 回　オースティン『高慢と偏見』より抜粋、講読、ベネット家の人々（予習必須、演習含む） 第 12 回　オースティン『高慢と偏見』より抜粋、講読、ダーシーを中心に（予習必須、演習含む） 第 13 回　オースティン『高慢と偏見』より抜粋、講読、エリザベスを中心に（予習必須、演習含む） 第 14 回　リチャードソンとオースティンにおける登場人物の描かれ方 第 15 回　全体のまとめ 定期試験
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	川口喬一『イギリス小説入門』（研究社）ほか、適宜紹介する。
評価方法	期末試験（70%）、授業参加度（毎回授業内容コメント・シート提出、30%）の点数化により合計 100 点満点で評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	アメリカの文学と文化Ⅰ						
担当教員	藤吉知美						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020960
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英米文学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英米文学						

授業の概要	・19 世紀から 20 世紀のアメリカを代表する作家たちの短編小説を読みながら、そこに表現されたアメリカ文化の特徴を理解し、時代を超えて伝えられる文学作品の魅力に触れる。
授業の 到達目標	・短編小説の精読を通して読解力を磨く。 ・行間に隠された意味を探り、小説のテーマを考察する。 ・小説の背景となる時代や社会の諸問題に触れながら、アメリカ文化の特徴を理解する。
授業計画	第１回：導入　授業の進め方と評価方法、アメリカ文学作品における短編の重要性とその特徴。 第２回：David Swan (1) 作者と時代背景 第３回：David Swan (2) 主人公の身に起こること 第４回：David Swan (3) 人生における偶然とその意味 第５回：The Notorious Jumping Frog of Claveras County (1) 作者と時代背景 第６回：The Notorious Jumping Frog of Claveras County (2) 開拓者精神 第７回：The Notorious Jumping Frog of Claveras County (3) ユーモアと方言 第８回：The Notorious Jumping Frog of Claveras County (4) ほら話とリアリズム 第９回：The Tell-Tale Heart (1) 作者と時代背景 第 10 回：The Tell-Tale Heart (2) 主人公の行動と動機 第 11 回：The Tell-Tale Heart (3) ゴシック小説における異常心理描写 第 12 回：The Last Leaf (1) 作者と時代背景 第 13 回：The Last Leaf (2) アメリカ南部社会と黒人の生活 第 14 回：Indian Camp (1) 作者と時代背景 第 15 回：Indian Camp (2) 少年が見た生と死 定期試験
テキスト	Dream and Wrath in America―Great Short Stories―　朝日出版社
参考文献	リーダーズ英和辞典（研究社） 『アメリカ文学入門』諏訪部浩一編（三修社） 『アメリカ小説入門』井上譲治（研究社）
評価方法	テスト（８０%）、レポート（２０%）
自己学習に 関する指針	辞書を活用して予習すること。
履修上の 指導・留意点	授業への積極的な参加姿勢を評価します。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、高等教育機関（高等専門学校）での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を展開する。

授業科目	アメリカの文学と文化Ⅱ						
担当教員	宮澤文雄						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020970
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英米文学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英米文学						

授業の概要	F. Scott Fitzgerald の長篇小説 The Great Gatsby (1925) を原文でおよそ毎回１章ずつ読みながら作品を分析するための読み方を学ぶ。また文学作品はそれ自体で自己完結したものではなく、ある特定の時代との関係のなかで生まれたものでもあるので、作品の歴史性およびアメリカ文化の特質についても学んでいく。
授業の 到達目標	アメリカ小説の読解を通して、小説理解に欠かせない文学概念およびアメリカ文学の特徴について理解を深めながら、作品が生み出された時代の文化状況に関する基礎知識の獲得を目標とする。
授業計画	第１回　作家を読む：フィッツジェラルドという作家について 第２回　文化を読む：フィッツジェラルドの生きた時代背景および文化状況について 第３回　Chapter 1 を読む 第４回　Chapter 2 を読む 第５回　Chapter 3 を読む 第６回　文化を読む：ジャズ、モータリゼーション、消費文化 第７回　Chapter 4 を読む 第８回　Chapter 5 を読む 第９回　Chapter 6 を読む 第 10 回　文化を読む：アメリカとアルコール 第 11 回　Chapter 7 を読む 第 12 回　Chapter 8 を読む 第 13 回　Chapter 9 を読む 第 14 回　応用編　映画 The Great Gatsby を読む 第 15 回　応用編　小説と映画の比較 定期試験
テキスト	F. Scott Fitzgerald. The Great Gatsby (Scribner, 2004) ISBN: 978-0743273565
参考文献	（１）Kirk Curnutt. The Cambridge Introduction to F. Scott Fitzgerald (Cambridge UP, 2007) （２）Horst H. Kruse. F. Scott Fitzgerald at Work: The Making of “The Great Gatsby” (U of Alabama, 2014) （３）笹田直人ほか『概説アメリカ文化史』（ミネルヴァ書房、2002） （４）デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社、1997）
評価方法	定期試験（100%）
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	中国古典Ⅰ（基礎）						
担当教員	竹田健二						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020980
免許資格関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・漢文学 ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・漢文学						

授業の概要	中国の古典（漢文）を自力で解釈し訓読することができるようになる上で最も重要な、漢字一字一字の意味と語順との理解を中心として、講説する。漢文を構成する一つ一つの漢字がその漢文においてどのような意味で用いられているか、また語順の規則に則った解釈をするとはどういうことかについて、授業の中で実際に漢和字典を引きつつ、著名な故事成語・諸子百家の文章などの具体例に即しつつ理解を深める。
授業の到達目標	・漢和字典を活用しながら，自力で白文を解釈し訓読できるようになることを目標に，段階を踏みつつ，漢文読解能力の基礎を養う。
授業計画	第１回　ガイダンス　「漢文」とは何か 第２回　漢文読解の基礎　漢字の基礎知識 第３回　漢文読解の基礎　漢語の構造その１（漢字の歴史・漢字の三要素） 第４回　漢文読解の基礎　漢語の構造その２（熟語の構成と語順のルール） 第５回　漢文読解の基礎　漢語の構造その３（漢和辞典の活用） 第６回　漢文読解の基礎　助字その１（「於」・「而」） 第７回　漢文読解の基礎　助字その２（「則」・「乃」・「即」） 第８回　漢文読解の基礎　助字その３（「与」・「也」・「矣」・「何」） 第９回　漢文読解の基礎　故事成語その１（「求剣刻舟」） 第 10 回　漢文読解の基礎　故事成語その２（「出藍」） 第 11 回　漢文読解の基礎　故事成語その３（「臥薪嘗胆」） 第 12 回　漢文読解の基礎　故事成語その４（「朝三暮四」） 第 13 回　諸子百家を読むその１（『論語』） 第 14 回　諸子百家を読むその２（『韓非子』） 第 15 回　諸子百家を読むその３（『墨子』・『老子』） 定期試験
テキスト	教科書は特に使用せず、適宜プリントを配布する。
参考文献	参考文献については随時紹介するが、高校時代の漢文学習で用いた参考書など、活用できるものは何でも活用すること。
評価方法	成績は、期末試験の成績によって評価する。
自己学習に関する指針	漢文の訓読の学習は、語学学習的な面が強い。時間と手間とを惜しまずに漢和辞典を引き、かつ文脈に即した解釈に心がけること。
履修上の指導・留意点	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等専門学校）での勤務経験（国語科担当）を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	中国古典Ⅱ（発展）						
担当教員	竹田健二						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020990
免許資格関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・漢文学 ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・漢文学						

授業の概要	中国古典（漢文）を読解する力を養い、中国古代思想について理解を深めること、また文献の解釈をめぐって議論に参加し、展開することができるようになることを目的とし、古典として著名な『論語』の学而篇を演習形式で読み進める。 授業の進め方については、履修者数にもよるが、予定としては以下の通り。 (1) 予め適当な長さにテキストを分割し、分担範囲を定める。 (2) 各分担範囲について、発表者を指名する。 (3) 発表者は、本文・書き下し文・語釈・通釈などを記した発表資料を作成し、授業の冒頭で発表を行う。 (4) 発表に対して、他の出席者は全員が質問者となり、質問を行う。
授業の到達目標	・中国古典（漢文）を解釈することができる。 ・発表者として、自分の解釈をまとめ、分かりやすく発表することができる。また、質問者からの質問に対して適切に対応し、議論を深めることができる。 ・質問者として、発表者の解釈に対して疑問点を適切に質問し、発表者との議論を深めることができる。
授業計画	第１回　ガイダンス（『論語』概説、分担割り当てなど） 第２回　第１章「子曰、「學而時習之、不亦説乎。～」」 第３回　第２章「有子曰、「其為人也孝弟而好犯上者、鮮矣。～」」 第４回　第３章「子曰、「巧言令色、鮮矣仁。」」 第５回　第４章「曾子曰、「吾日三省吾身。為人謀而不忠乎。～」」 第６回　第５章「子曰、「道千乘之國、敬事而信、～」」 第７回　第６章「子曰、「弟子入則孝、出則弟、～」」 第８回　第７章「子夏曰、「賢賢易色、事父母能竭其力、～」」 第９回　第８章「子曰、「君子不重則不威、～」」 第 10 回　第９章「曾子曰、「慎終追遠，民德歸厚矣。」」 第 11 回　第 10 章「子禽問於子貢曰、「夫子至於是邦也、～」」 第 12 回　第 11 章「子曰、「父在、觀其志。～」」 第 13 回　第 12 章「有子曰、「禮之用、和為貴。～」」 第 14 回　第 13 章「有子曰、「信近於義、言可復也。～」」 第 15 回　第 14 章「子曰、「君子食無求飽、居無求安、～」」 定期試験
テキスト	教科書は特に使用せず、適宜プリント（冨山房『漢文大系』所収の安井衡『論語集説』）を配布する。
参考文献	金谷治『論語』（岩波文庫） 加地伸行『論語』（講談社学術文庫） 吉川幸次郎『朝日古典選　論語』 この他、高校時代の漢文学習で用いた参考書など、活用できるものは何でも活用すること。
評価方法	成績は、指名されて行った発表や質問の内容に加えて、授業の中でいかに議論に参加したのかという点を重視し、試験の成績とあわせて総合的に評価する。
自己学習に関する指針	「暗記する」ことではなく、「考える」ことが重要である。時間と手間とを惜しまずに漢和辞典を引き、参考文献を活用しつつ、無理のない解釈を心がけること。また、考えたこと、疑問に感じたことを授業の中で積極的に発言し、議論に参加すること。

履修上の 指導・留意点	「中国古典Ⅰ（基礎）」の単位を修得した者のみ、「中国古典Ⅱ（発展）」の履修を認める。 なお、本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関（高等専門学校）での勤務経験（国語科担当）を生かして、教員免許取得に関する授業を展開する。

授業科目	英米文学特殊講義						
担当教員	中井誠一						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021000
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英米文学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英米文学						

授業の概要	19 世紀から 20 世紀にかけて、モダニズム文学の先駆的手法や視点技法によって世界文学に影響を与えたアメリカ人作家 Henry James の、国際テーマを扱った小説 The American を読む。毎回、重要人物や事柄を中心に、時代状況を解説し、難解部分について議論しながら精読する。
授業の 到達目標	・アメリカ文学作品の原文の精読と議論を通じて、英語読解力の増強と鑑賞力だけでなく、文化や現実認識の多角的視点の重要性を学んでいくことを目的とする。
授業計画	第１回　イントロダクション 第２回　Chapter I, II (Christopher Newman) 第３回　Chapter III, IV (Claire de Cintré) 第４回　Chapter V, VI (Benjamin Babcock) 第５回　Chapter VII, VIII (Valentin de Bellegarde) 第６回　Chapter IX, X (Courtship) 第７回　Chapter XI, XII (The Bellegardes) 第８回　Chapter XIII, XIV (Acceptance) 第９回　Chapter XV, XVI (Grand fête) 第 10 回　Chapter XVII, XVIII (Cancel of the engagement) 第 11 回　Chapter XIX, XX (Death of Valentin) 第 12 回　Chapter XXI, XXII (Reculusion) 第 13 回　Chapter XXIII, XXIV (Revenge) 第 14 回　Chapter XXV, XXVI (Conclusion) 第 15 回　The American の批評史概観, 授業のまとめ 定期試験
テキスト	Henry James, The American (Createspace Independent Pub.) ペーパーバック版、Kindle 版、どちらでも可。
参考文献	授業中に適宜配布する。
評価方法	期末試験、授業参加度（課題達成・発表等を勘案）の点数化により、合計 100 点満点で評価する。
自己学習に 関する指針	事前にテキストの該当箇所をしっかり読んで、問題点を整理して授業に臨んでください。
履修上の 指導・留意点	第１回目に、発表の仕方を含めた授業の解説を行いますので、必ず出席してください。